



水・緑・風が輝く  
豊かな暮らしと産業で  
飛躍するまち"香南市"

# 第2次香南市振興計画前期基本計画 実施状況報告書

(計画期間：平成29年度～令和3年度)

令和元年9月

香 南 市

～ 目 次 ～

1. 実施状況報告書について・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 「まちづくり指標」による施策の評価について・・・・・・・・	1
3. 振興計画の体系と評価の対象について・・・・・・・・	2
4. 前期基本計画の施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・	3
5. 施策評価シートの見方・・・・・・・・・・・・・・・・	6
第1章 協働のまちづくり（3施策）・・・・・・・・	7
第2章 産業振興（7施策）・・・・・・・・	10
第3章 人生支援（5施策）・・・・・・・・	22
第4章 都市基盤（3施策）・・・・・・・・	31
第5章 教育文化（8施策）・・・・・・・・	34
第6章 防 災（4施策）・・・・・・・・	46

## 1. 実施状況報告書について

第2次香南市振興計画は、香南市のあるべき姿とそれを実現するための考え方や方向を示した計画であり、平成29年度から令和8年度までの10年間にわたるまちづくりの基本的な指針となるものです。

また、10年間の計画期間のうち、令和3年度までの5年間の計画期間とした前期基本計画を策定し、各施策の効果的な推進を図っています。

この「実施状況報告書」は、平成30年度の1年間の取り組みをまとめたものです。

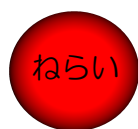
### 【振興計画の構成と期間】

年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)
基本構想	10年									
基本計画	【前期】5年					【後期】5年				

## 2. 「まちづくり指標」による施策の評価について

前期基本計画では、施策の進捗状況および成果を把握するため、それぞれの基本施策に対して「現状の数値」と「目指す目標値」を示した、「まちづくり指標」を設定しています。

### 【まちづくり指標のねらい】

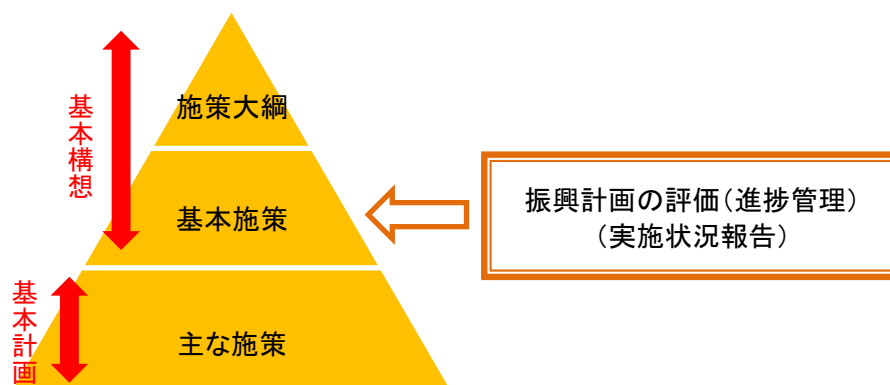


- 効率的に計画を進める  
まちづくり指標の数値目標については、Plan（計画）－Do（実施）－Check（評価）－Action（改善行動）の視点により、施策の評価・改善を図るとともに、成果を確認していき、効率的に計画を進めます。
- 成果を確認し、施策の評価を行う。  
取り組んだ成果を確認し、基本計画の総合的な評価を行います。

また、基本施策の評価にあたっては「まちづくり指標」の評価とあわせて、「基本施策を構成するその他のまちづくり指標」の評価を勘案し、「成果と課題」を明らかにした上で、総合的に評価を行います。

### 3. 振興計画の体系と評価の対象について

第2次香南市振興計画前期基本計画では、将来都市像を「水・緑・風が輝く 豊かな暮らしと産業で 飛躍するまち“香南市”」と定めています。この将来都市像を実現するために6つの施策大綱を掲げ、大綱の下には30の基本施策、128の主な施策を位置づけ、振興計画の体系を構築しています。



施策評価の対象は、第2次香南市振興計画の基本施策（30 施策）とします。

基本施策 30施策

施策大綱	通しNo	基本施策	通しNo	主な施策	
第一章 協働のまちづくり	1	協働のまちづくりの推進	1	住民との情報交換の推進	
			2	地域活動の推進	
	2	健全な行財政の運営	3	行財政健全化の推進	
			4	広域行政の推進	
	3	人権尊重のまちづくりの推進	5	人権に関する意識啓発の推進	
			6	多文化共生の推進	
	第二章 産業振興	4	農業の振興	7	農業生産基盤の充実
				8	防災への対策
				9	担い手対策の促進
				10	農産物のブランド化の推進と加工品の開発
				11	消費者の安心安全志向への対応
				12	農地の保全と活用の促進
				13	有害農獣被害対策
5	林業の振興	14	林業生産基盤の充実		
		15	森林の多面的な利活用の促進		
		16	森林の活用		
6	水産業の振興	17	水産機能施設の整備		
		18	漁港施設の整備		
		19	新規漁業就業者の育成支援		
		20	漁場の保全		
		21	漁業者の所得向上		
		22	観光漁業の推進		
7	商工業の振興	23	水産加工品流通販売の推進		
		24	企業誘致の促進		
		25	既存企業の育成支援		
		26	魅力のある商業地・商店街づくり		
		27	空き店舗の活用		
		28	新規企業の育成支援		
		29	新たな観光職占の整備		

#### 4. 前期基本計画の施策体系

施策大綱		通しNo.	30の基本施策	通しNo.	128の主な施策
第一章	協働のまちづくり	1	協働のまちづくりの推進	1	住民との情報交換の推進
				2	地域活動の推進
		2	健全な行財政の運営	3	行財政健全化の推進
				4	広域行政の推進
		3	人権尊重のまちづくりの推進	5	人権に関する意識啓発の推進
				6	多文化共生の推進
第二章	産業振興	4	農業の振興	7	農業生産基盤の充実
				8	防災への対策
				9	担い手対策の促進
				10	農産物のブランド化の推進と加工品の開発
				11	消費者の安心安全志向への対応
				12	農地の保全と活用の促進
				13	有害鳥獣被害対策
		5	林業の振興	14	林業生産基盤の充実
				15	森林の多面的な利活用の促進
				16	森林の活用
		6	水産業の振興	17	水産機能施設の整備
				18	漁港施設の整備
				19	新規漁業就業者の育成・支援
				20	漁場の保全
				21	漁業者の所得向上
				22	観光漁業の推進
				23	水産加工品流通販売の推進
		7	商工業の振興	24	企業誘致の促進
				25	既存企業の育成・支援
				26	魅力のある商業地・商店街づくり
				27	空き店舗の活用
		8	観光の振興	28	新規企業の育成・支援
				29	新たな観光拠点の整備
				30	観光拠点の強化
				31	歴史を中心とした博覧会の開催
				32	観光施設間の連携
				33	地域に親しむ観光の促進
				34	物部川地域3市での観光振興
				35	活性化に向けたあらゆる産業との連携の強化
				36	おもてなしの向上
				37	外国人観光客の受け入れ体制づくり
		9	住宅関連産業の振興及び定住環境の充実	38	住環境の整備
				39	市営住宅の整備
				40	南海トラフ地震への備え
				41	老朽化した住宅等の除去
				42	移住者向け住宅の確保と促進
		10	分野を超えた連携	43	6次産業化による地産地消・外商の推進
				44	観光クラスターの整備
				45	産業人材の育成・確保

施策大綱		通しNo.	30の基本施策	通しNo.	128の主な施策
第三章	人生支援	11	幼年期の支援の推進	46	妊産婦の安心で安全な環境づくりの推進
				47	親と子の心と体の健康づくり
				48	子どもと子育て家庭に優しい環境づくり
				49	質の高い保育・教育の推進
				50	すべての子どもの成長を保障する環境づくり
		12	就学期の支援の推進	51	豊かな人間形成を育む環境づくり
				52	子ども・親・家庭に優しい環境づくり
				53	親と子の心と体の健康づくり
				54	学校と地域の連携による教育環境づくり
				55	すべての子どもの成長を保障する環境づくり
		13	成年期の支援の推進	56	いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進
				57	出会い・新しい家庭づくり支援の推進
				58	親と子ども・働く環境との両立支援の推進
				59	生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援
				60	配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援
				61	移住者ウエルカム支援の推進
		14	熟年期の支援の推進	62	いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進
				63	生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援
				64	配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援
		15	高齢期の支援の推進	65	健康で長生きできる環境づくりの推進
66	世代間交流を楽しみ生活文化の伝承ができる地域社会づくりの推進				
67	親・子・孫で支える地域社会づくりの推進				
68	配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援				
69	地域で支えあいがあり、香南市に住んで良かったと思える環境づくりの推進				
第四章	都市基盤	16	公園・緑地と景観形成、環境保全の整備	70	自然的土地利用と都市的土地利用の推進
				71	緑豊かな都市空間の創出
		17	水資源等活用保全の推進	72	治水・利水整備の促進
				73	生活関連水の処理の整備
		18	交通網体系の整備	74	道路網の整備
				75	公共交通の充実
第五章	教育文化	19	保幼小中連携の推進	76	保幼小中連携（一貫）教育の推進
		20	家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）	77	厳しい環境にある子どもたちへの支援
				78	学校の組織マネジメント力の強化
				79	不登校の改善
				80	子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築
				81	家庭の教育力の向上
				82	放課後の子どもの生活・学習支援の充実
		21	これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進	83	就学前教育の充実
				84	確かな学力の育成
				85	豊かな心の育成
86	キャリア教育の推進				

施策大綱	通しNo.	30の基本施策	通しNo.	128の主な施策			
第五章	教育文化	21	これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進	87	人権教育の推進		
				88	健やかな体の育成と健康の増進		
				89	特別支援教育の推進		
		22	きめ細かな教育の推進	90	教職員の専門性・指導力の向上		
				91	保育所・学校運営の充実		
				92	生徒指導の充実		
				93	教育相談・支援体制の充実		
		23	安全な教育環境での教育の推進	94	防災教育等の推進		
				95	保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備		
		24	生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり	96	ライフステージに対応した学習の充実 (家庭教育・学校教育・社会教育)		
				97	生きがいを得る学習機会の充実		
				98	現代的課題に対応した学習機会の充実		
				99	学習施設の整備		
				100	地域に密着した学習の場の提供		
				101	生涯学習推進組織の整備		
				102	情報提供・相談機能の強化		
				103	指導者の育成・人材活用		
				104	生涯学習を通じての地域づくり		
				105	全ての人と共生する生涯学習の推進		
		25	文化の継承と振興	106	芸術・文化活動の推進		
				107	郷土の歴史・文化遺産の保存と継承		
		26	生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興	108	生涯スポーツ・競技スポーツの推進		
				109	スポーツ環境の充実		
				110	スポーツ指導員の育成・人材活用		
		第六章	防災	27	災害に強いまちづくりの推進	111	津波・高潮の被害軽減対策
						112	水害・土砂災害予防対策
113	地震動に強いまちづくり						
114	孤立化防止対策の推進						
115	ライフラインの安全対策の強化						
28	地域防災力の育成			116	防災知識の普及		
				117	自主防災体制の整備		
				118	災害時要配慮者の支援対策		
				119	ボランティアの環境整備		
29	防災体制の強化			120	応急活動体制の整備		
				121	情報通信システムの強化		
				122	火災予防対策の推進		
				123	災害時医療救護体制の整備		
				124	緊急輸送体制の整備		
30	市民生活の確保			125	避難対策の推進		
				126	食料・飲料水・生活必需品の確保		
		127	保健衛生・防疫体制の確保				
		128	ごみ・がれき、し尿の処理体制の確保				

## 5. 施策評価シートの見方

第2次香南市振興計画 基本施策評価シート(平成〇〇年度)											シートNo.	
施策大綱名											←	第2次振興計画前期基本計画の体系です。
基本施策名	評価対象となる基本施策(取組)です。											
<b>① 施策の基本目標</b>												
第2次振興計画前期基本計画に掲げている基本施策の基本目標です。												
<b>② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標</b>												
体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との比較	達成状況 (R3に評価)
第2次振興計画前期基本計画に掲げている施策の基本目標の成果等を測定するための指標(まちづくり指標)です。施策により、指標数は異なります。	目標			第2次振興計画前期基本計画に掲げている施策のまちづくり指標の計画策定時の当初値と目標値、計画期間中の実績値です。							目標との比較です。	まちづくり指標の達成状況です。R3年度に評価します。
	実績											
	目標											
	実績											
矢印(→)で評価します。												
<b>③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」</b>												
体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との比較	達成状況 (R3に評価)
施策の基本目標を構成する、その他の指標について記載しています。	目標											
	実績											
	目標											
	実績											
<b>④ 128の施策ごとの「成果と課題」</b>												
No. 施策名称												
まちづくり指標による定量的な評価等を踏まえ、上記施策に対しての成果と課題等を記載しています。												
No. 施策名称												
<b>⑤ 基本施策の「総合的評価」</b>												
評価結果	評価所見および次年度に向けて											
上記の成果と課題を踏まえ、多角的な分析等で右記の3段階評価をしています。	評価結果の所見と次年度に向けての展開方針を記載しています。											
	《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない											



施策大綱名	第1章 協働のまちづくり
基本施策名	1. 協働のまちづくりの推進

①施策の基本目標

まちづくりにおいて、市民と行政と一緒に考え、取り組むための体制づくりを推進し、市民との情報共有を図り、各地域との懇談会など、市民と行政のコミュニケーションを図ります。  
 多様化する生活課題に密着した地域活動が行えるよう、自治会や協議会等の活動支援に努めます。  
 また、香南市まちづくり評議会を開催し、市民と行政が「協働」で地域課題を解決する仕組みづくりに取り組めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
2	自治会組織の結成率	%	目標		89.0	95.0	100.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	81.0	86.0	90.0	90.0					
2	協議会の結成率	%	目標		63.0	68.0	73.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	53.0	53.0	53.0	53.0					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
1	地区懇談会の開催回数(種類)	回	目標		1	1	2	2	2	2	→	
			実績	1	1	1	2					
1	地区懇談会の参加者数(延)	人	目標		350	355	360	360	360	360	↘	
			実績	348	325	263	293					
2	協議会組織の設立数	組織(累)	目標		12	13	14	19	19	19	↘	
			実績	10	10	10	10					
2	自治会組織の設立数	組織(累)	目標		87	93	95	95	95	95	↘	
			実績	79	83	86	85					
2	集落活動センター設置数	箇所(累)	目標		1	2	2	2	2	2	↘	
			実績	1	1	1	1					
2	地域活動団体の育成数	団体	目標		3	3	3	3	3	3	↘	
			実績	2	2	0	0					

④128の施策ごとの「成果と課題」

1 住民との情報交換の推進	<p>市が進める重点施策及び教育分野における重点取組などについて説明し、地域のことや行政全般に関して参加者の皆さんと意見交換を行う地区別懇談会を本年度も実施した。                  「日程が合わない」「説明が長く意見交換の時間が短い」などの課題を受けて、これまで市内18カ所で開催していた地区懇談会の開催方法を平成30年度から見直し、行政主体と地域主体の2種類で実施した。                  行政主体の地区別懇談会については、4月13日～20日にかけて5町5ヶ所で開催し、市民148人の参加があった。地域主体については、5月27日～9月15日にかけて要望のあった8カ所の自治会・協議会で開催し、145人の参加があった。</p>
2 地域活動の推進	<p>市内全域での自治会・協議会の設立を目指し取り組んでおり、10協議会、85自治会が設立済み(平成30年度末)である。                  自治会は、全部で95組織を目標としているが、1組織(ルネサス自治会)が消滅したため85組織となり、目標には至っていない。                  協議会においては、平成27年度から新たな設立には至っていないので、引き続き、組織の設立を最優先に取り組んでいきたい。また、新規の設立支援だけでなく既存組織への支援を行っていくことも重要である。                  集落活動センターの設置については、平成30年度の設置には至らなかったが、設立に向けて3地区で勉強会を実施し、内1地区(岸本地区)においては、センター推進会を立ち上げ、令和2年5月のセンター開設に向けて計画中である。                  地域活動の推進について、団体の育成に向けた取組は行っているが、補助金を活用する団体はなかった。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p><b>C</b></p> <p>《基準》基本施策の成果                  (A) 充分成果がでている                  (B) ある程度成果がでている                  (C) あまり成果がでていない</p>	<p>協議会、自治会の結成については、地元の理解が不可欠であり、目標達成するよう、引き続き地域に                  出向き、組織の必要性を説明し結成に向けて働きかける。                  また、地区懇談会については、課題を受けて内容の充実(見直し)を行い、行政主体の懇談会と行政が                  出向いての地域主催の懇談会を開催したが、参加者の増加にはあまり繋がらなかった。来年度は、地域                  主体の懇談会の見直しを行い、一層住民との情報交換が図れる機会の提供に努めていく。</p>

施策大綱名	第1章 協働のまちづくり
基本施策名	2. 健全な行財政の運営

①施策の基本目標

自立した財政基盤の確立をめざし、安定した健全な財政運営を行うため、中長期的な見通しを立て、事業の重点化を図りながら、諸施策を進めます。  
 行政改革の着実な推進、職員の政策立案能力などの資質向上を図るとともに、行政事務の効率化や情報化を含め、市民サービスの一層の向上と信頼される行政組織づくりに努めます。  
 また、まちづくりをより効果的に推進するために、関係市町村との調整を行い、広域的な施策を推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」\_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
3	実質公債費比率	%	目標		11.7	11.8	11.0	10.5	10.8	12.0	↗	
			実績	11.1	10.0	8.7	7.0					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
4	広域行政の運営	組合	目標		5	5	5	5	5	5	→	
			実績	5	5	5	5					
4	大学との連携事業 (学生参加人数)	人	目標		150	150	150	150	150	150	↘	
			実績	168	373	240	118					

④128の施策ごとの「成果と課題」

3 行財政健全化の推進	<p>平成30年度の比率(平成28年度～H30年度の3カ年平均値)は、7.0%で、平成29年度に比べ、1.7%減少した。主な要因は、合併前にそれぞれの旧町村で実施した普通建設事業に係る地方債の償還のピークが過ぎたことや合併後に実施した繰上償還の効果などである。</p> <p>* 実質公債費率・・・自治体の借入金(地方債)の返済額の大きさを、当該自治体の財政規模に対する割合(3カ年の平均値)で表したもので、その数値が低いほど財政状況は良好とされ、18%以上になると、地方債の発行に国・都道府県の許可が必要になる。</p>
4 広域行政の推進	<p>一部事務組合、広域連合や広域市町村圏などにおいて運営している広域行政については、関係市町村などの調整を調整を行い、効果的・効率的に業務を行った。(香南斎場・香南香美衛生組合・南国香美香南租税債権管理機構・香南清掃組合・香南香美老人ホーム)</p> <p>また、平成27年度から高知大学地域協働学部と連携し、西川地区集落活動センターでの活動を通じた学びの場の提供を行っている。多くの学生が参加し、地域を盛り上げてくれているが、今年度は3回生のみでの参加で参加人数は目標に至っていない。来年度以降は、新たな産官学連携として物部川流域(香美市・南国市・香南市)で高知大学生と連携を図っていく連携へと移行が予定されており、引き続き、地域の活性化に取り組んでいく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p><b>A</b></p> <p>《基準》基本施策の成果                      (A) 充分成果がでている                      (B) ある程度成果がでている                      (C) あまり成果がでない</p>	<p>中期財政計画などに基づき、計画的な行財政運営を行ってきた成果がでているが、今後は普通交付税の合併特例措置の終了を見据えた、歳入に見合った歳出構造の確立に取り組んでいく必要がある。</p>

施策大綱名	第1章 協働のまちづくり
基本施策名	3. 人権尊重のまちづくりの推進

①施策の基本目標

市民に人権尊重の理念を広げるため、「香南市人権教育・啓発推進基本計画」・「男女共同参画基本計画」に基づき、人権尊重のまちづくりを推進していきます。  
 また、人権啓発フェスティバル等のイベントや施策を関係各課が実施し、市民及び市人権教育研究協議会などと連携を図りながら、学校・職場・地域社会などの場を通して、効果的な教育・啓発活動を進めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
5	人権講演会への参加者数 (3講演会)	人	目標		700	710	720	730	740	750	↘	
			実績	692	420	845	644					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
5	人権教育・啓発推進講座終了率(市職員対象)	%(累)	目標		89.0	90.0	91.0	92.0	93.0	93.0	↗	
			実績	88.0	92.6	92.4	91.8					
5	企業などに対する研修会の実施回数	回	目標		2	2	2	2	2	2	→	
			実績	2	2	2	2					
6	ALTや外国人とのイベント回数	回	目標		3	3	3	3	3	3	↘	
			実績	5	2	3	1					

④128の施策ごとの「成果と課題」

5	人権に関する意識啓発の推進	<p>人権講演会への参加者数については、3講演会の参加者を指標としている。「部落差別をなくする運動」強調旬間(269人)、いきいきセミナー(155人)、人権フェスティバル(220人)の参加者があったが、いきいきセミナーの参加者が例年に比べて少なく、目標参加者数を下回った。例年の課題として、講師がある程度著名人でないと講演会への参加が望めない傾向がある。</p> <p>また、香南市企業等人権問題連絡協議会で情報通信の発行に取り組むとともに、総会後の研修会を含む自主研修会を2回実施し、なぜ企業が人権問題に取り組む必要があるのか等の学習を深めることができた。</p>
6	多文化共生の推進	<p>国際理解を深める教育・啓発を推進するために、ALTや外国人とのイベントを実施している。</p> <p>外国人とのイベント交流として、年間3回を予定していたが、中央生活学級でイタリアの歴史や文化についての講演会の開催のみで目標回数には至らなかった。来年度以降は、多文化を学ぶ学習会の機会をもっと計画していく。</p> <p>また、ALTとの交流については、イベントの開催はできなかったが、各学校での外国語指導や児童生徒との交流は図られている。</p> <p>学校においては、各小中学校に週に1~5日ALTを配置し、勉強や遊びを通じて国際理解を深めている。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p><b>B</b></p> <p>《基準》基本施策の成果                      (A) 充分成果がでている                      (B) ある程度成果がでている                      (C) あまり成果がでない</p>	<p>人権教育・啓発推進講座(市職員対象)の参加者数は、計画通り取り組んでいるが、人権講演会への参加者が大きく減少しており、広報や呼びかけを一層見直す必要がある。</p> <p>研修会やイベントの開催数は、目標回数を開催できることが継続した啓発活動を行うことにつながるため、目標回数を開催できていないことは反省すべき点である。目標回数の企画とマンネリ化を防ぐよう内容にも変化をつける等、参加者が関心をもって人権学習ができるように努める。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	4. 農業の振興

① 施策の基本目標

農業の振興を図るため、農産物の品質を高め、生産量の増加及び農業者の所得向上をめざし、基盤整備の強化を図ります。  
また、新たな担い手の確保と地域の中核となる農業者等の育成や中山間資源を活かした商品開発、販路拡大の支援、集落営農の推進に努めます。

② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
9	新規就農者数 (70人は平成29年度からの累計) (上段:累計、下段:単年)	人	目標	/	10	12 (12)	24 (12)	39 (15)	54 (15)	70 (16)	↘	
			実績	17	14	7 (7)	16 (9)					

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
7	農業基盤整備の整備率 (H28・29_農業基盤整備促進事業) (H30_農地耕作条件改善事業)	%	目標	/	30.0	40.0	14.0	14.0	60.0	100.0	↗	
			実績	21.9	30.2	30.2	14.6					
8	重油流出防止タンクの設置 (タンク・防油堤)	基	目標	/	27	30	30	30	30	30	↘	
			実績	18	21	17	19					
9	施設園芸ハウス整備面積	㎡	目標	/	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	↗	
			実績	5,592	14,879	20,661	23,132					
9	環境制御技術導入農家数	件	目標	/	30	30	30	30	30	30	↗	
			実績	34	33	27	43					
10	エメラルドメロン販売額	百万円	目標	/	412	425	437	450	450	450	↗	
			実績	406	407	428	447					
10	ニラ販売額	百万円	目標	/	1,165	1,230	1,295	1,360	1,360	1,360	↘	
			実績	1,100	1,399	1,029	995					
11	学校給食への市内産野菜(主 要品目)の使用率	%	目標	/	37.0	37.0	38.0	39.0	39.0	39.0	↘	
			実績	36.0	31.0	30.0	36.0					
11	市内施設への供給先の確保 (米)	箇所 (累)	目標	/	0	0	0	1	1	1	-	
			実績	0	0	0	0					
12	中山間地域での協定の締結 数	協定 (累)	目標	/	11	13	13	13	13	13	↘	
			実績	8	11	11	11					
13	有害鳥獣捕獲数	頭羽	目標	/	614	500	500	500	500	500	↗	
			実績	566	598	742	620					
13	有害鳥獣被害防止柵の設置 距離	m	目標	/	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	↘	
			実績	8,340	7,539	9,026	9,666					

④ 128の施策ごとの「成果と課題」

7 農業生産基盤の充実	農業基盤整備促進事業を活用し、老朽化した頭首工の整備(農業生産基盤の充実)を実施してきたが、平成28年度から事業未採択で事業の実施ができていなかった。平成30年度から農地耕作条件改善事業を活用して事業の再開を行い、門田堰・東佐古用排水路(測量設計)の2ヶ所の整備を行った。整備率は目標値と実績値は事業計画の費用で算出しており、予定通りに事業実施できた。引き続き、予算要望を行い、早期事業実施に向けて取り組んでいく。
8 防災への対策	重油流出防止タンクの設置により、タンクと防油堤が単独に施行できるようになり、防災への対策が図りやすくなっている。 設置にあたっては、資金面に関して個人負担が一定必要となることから、平成30年度も目標値には届かなかった。平常時の燃料漏れ対策や南海地震に備えるためにも、事業のPRを推進していく。
9 担い手対策の促進	新規就農者として、Uターン5人、Iターン4人の9人が営農を開始したが、目標達成には至っていない。令和元年度は、これまでの取組の継続と農人フェアや高知暮らしフェアなどの新規就農に向けたイベント等に参加し、県外からの新規就農者の獲得にも努める。 施設園芸ハウスの整備面積は目標値を上回る整備(23,132㎡:中古ハウス1件、新規ハウス11件)が図れ、環境制御技術導入農家も目標を大きく上回る実績で導入することができた。平成26年度から5年間の期限付き事業のため、平成30年度が最終年度であったが、引き続き継続することとなり、事業を周知し一層の利用増加を図る。

<b>10 農産物のブランド化の推進と加工品の開発</b>
農産物のエメラルドメロン、ニラについては、高知県アクションプランにも位置づけてとりこんでおり、ブランド化が図られている。販売額においても、ニラは近年若干下がりがみとなっているが、エメラルドメロンについては目標額を達成できた。今後も農業者やJA高知県香美地区と連携し、一層の販売促進を図っていく。
<b>11 消費者の安心安全志向への対応</b>
安全な食べ物を安心して食べられるために、地域で生産されたものを地域の人たちが消費する「地産地消」の取組として、学校給食で市内産野菜(主要品目)を使用していくよう取り組んでいる。平成29年度は野菜の高騰、平成30年度は長雨や台風の影響で市内産野菜の育成が進まなく、使用率は約36%と目標には至っていない。品質及び納品量の安定的な確保、気候に対応した栽培計画及び品質の選定・研究を行い、安心安全な農作物づくりに取り組む。また、令和2年4月からはにんじんの供給を始めることとなっている。米の市内公施設への供給については、平成30年9月から野市保育所に供給を開始している。
<b>12 農地の保全と活用の促進</b>
農業生産条件が不利な地域においても農地の保全と活用が促進できるよう、中山間地域等直接支払事業を活用して事業に取り組んでいる。協定数は増えていないが、対象面積は増加させることができた。
<b>13 有害鳥獣被害対策</b>
有害鳥獣の捕獲数は総数では目標を大きく上回っている。内訳を見るとイノシシ・シカ等獣類の駆除が多く、カラス等鳥類についての駆除が少ない。今後の取組として、被害対策協議会等各地区の狩猟代表者が集まる場において、鳥類駆除への協力を要請し、捕獲数増加をめざしていく。また、被害防止として防止柵を設置しており、目標10,000mに対し、9,666mを設置した。今後も、広報等において本事業の周知を図っていく。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
<b>B</b>	《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない	担い手対策の事業や生産基盤の整備や担い手対策事業など、新規就農者確保の取組は他市町に比べて積極的に取組を進めているが、十分な成果には得られなかった。 農産物(ニラ・エメラルドメロン)のブランド化は図れているので、引き続き生産量の増加や農業者の所得向上を一層めざしていく。 有害鳥獣対策として有害鳥獣の捕獲数については目標を大きく上回っている。また、防護柵の設置は、目標距離の達成には至っていないが、例年以上の整備ができた。



施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	5. 林業の振興

①施策の基本目標

林道・作業道の維持管理と適切な整備に努めるとともに、森林のもつ公益的機能の維持増進や、森林の集約化と経営委任の推進を図ります。  
また、公共事業や公共施設での県産材の使用促進、木質バイオマス エネルギーの利用促進と多面的利用の拡大を図り、林業従事者の育成にも努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
15	森林経営計画の作成面積	ha (累)	目標	/	200	100 (300)	100 (400)	150 (550)	150 (700)	150 (850)	↘	
			実績	100	84.4 (184.4)	98.3 (282.7)	22.7 (305.4)	( )	( )	( )		
15	作業道の整備距離	m (累)	目標	/	2,000 (3,880)	2,620 (6,500)	3,500 (10,000)	2,500 (12,500)	2,500 (15,000)	2,500 (17,500)	↘	
			実績	1,880	2,802 (4,682)	1,247 (5,929)	990 (6,919)	( )	( )	( )		
15	搬出・切捨間伐面積	ha (累)	目標	/	10 (30)	50 (80)	90 (170)	80 (250)	0 (250)	0 (250)	↘	
			実績	20	21 (41)	10.4 (51.4)	42.4 (93.8)	( )	( )	( )		

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
14	林道道路側溝の整備距離	m	目標	/	2,500	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	-	
			実績	1,000	2,500	3,380	中止					
15	森林境界明確化面積	ha (累)	目標	/	100	250	420	600	600	600	↘	
			実績	97.4	97.4	97.4	120.1					
16	農業ハウス用パレットボイラー数	基 (累)	目標	/	2	2	2	2	2	2	→	
			実績	2	2	2	2					

④128の施策ごとの「成果と課題」

14 林業生産基盤の充実	<p>林業の生産性向上のために林道・作業道の整備は必要不可欠であり、例年林道道路側溝の整備を行っている。 平成30年度は城山・羽尾線側溝清掃(3,000m)を予定していたが、豪雨等の自然災害により各林道施設の被災・孤立集落の解消等を行うこととし、緊急性の高い工事を優先して行ったため、道路側溝の整備は中止した。来年度は、各林道施設の状況を考慮し、特に改善の必要な路線において、側溝の清掃(2,000m)を実施していく。</p>
15 森林の多面的な利活用の促進	<p>森林境界明確化事業において、複数の所有者にまたがる、ひとかたまりの森林の一体的な整備など、計画的・効率的な林業経営を推進している。 平成30年度は明確化対象地を「香我美町撫川地区」に変更したが、所有者の同意が得られない森林があり、22.71haしか事業は実施できなかった。令和元年度も、引き続き、香我美町撫川地区で事業実施予定であるが、同意者を増やしていくことと香美森林組合と連携して事業実施に努めていく。 また、作業道の整備や搬出・切捨間伐は予定通り事業は実施しているが、境界明確化と同様に事業実施に伴う地権者との交渉が困難となり、規模が縮小となり目標数値には至っていない。引き続き、地権者に事業の説明を行い、理解と同意者を増やしていく。</p>
16 森林の活用	<p>化石燃料の代替資源として森林資源を活用した木質バイオマスの普及促進に取り組んでいる。ボイラー数の現状維持を目標とし、現在2基が稼動して、問題なく利用できている。今後は、機器が耐用年数に達しているため、利用者への譲渡に取り組んでいくことと、バイオマスボイラーを活用した農業の活用について情報収集を図っていく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p><b>C</b></p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>森林境界明確化事業は香美森林組合と連携して実施している。当組合の事業計画との調整もあり目標どおりの規模を実施することは難しい。また、事業実施の際には地権者の同意も必要となり、地権者の把握や調整等にも時間を要している。 今後は、事業がスムーズの実施できるよう、森林法第191条の2(森林所有者等に関する情報の利用等)を根拠に所有者の特定に協力し、事業実施を推進していく。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	6. 水産業の振興

① 施策の基本目標

漁港施設・水産機能施設の改修整備・経営基盤の強化を行い、漁業の生産高を伸ばし、漁業収入の向上をめざします。また、地産地消を推進し、香南市ブランドの展開を図ります。

② 基本施策の「まちづくり指標」\_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
18	漁港施設の保全、改修整備率	%	目標		23.0	30.0	37.0	43.0	78.0	78.0	↘	
			実績	25.0	19.0	25.0	30.6					
21	沿岸漁業総生産量	トン	目標		1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	↘	
			実績	1,086	693	839	1,119					

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
17	水産機能施設の整備件数	件 (累)	目標		8	8	10	12	-	-	↗	
			実績	6	11	15	17					
19	新規就業者(中核漁業者)の確保	人 (累)	目標		1	2	3	4	4	4	↘	
			実績	1	1	1	1					
20	除去地区の海藻類育成被度	%	目標		52.0	58.0	64.0	70.0	70.0	70.0	↘	
			実績	44.0	44.0	52.0	47.0					
20	掃海事業の実施回数	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	2	1	1	1					
21	沿岸漁業生産額	千円	目標		-	-	-	-	-	-	↗	
			実績	-	-	292,770	358,870					
22	地引網漁業経営体の維持(経営体数)	経営体 (累)	目標		1	1	1	1	1	1	↘	
			実績	1	(休業中)	(休業中)	(休業中)					
23	手結加工場の販売額	万円	目標		1,500	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	↗	
			実績	2,299	4,058	4,426	6,328					
23	手結加工場の雇用人数(延)	人 (累)	目標		2	3	3	4	4	4	↘	
			実績	2	2	2	2					
23	手結加工場による給食センターへの食材納入回数	回	目標		11	11	11	11	11	11	↗	
			実績	19	22	23	22					
23	水産業に関する体験活動の実施	回	目標		2	2	2	2	2	2	→	
			実績	2	2	4	2					

④ 128の施策ごとの「成果と課題」

17 水産機能施設の整備	老朽化に伴う各種漁業用施設の改修、整備として、各支所や地区代表の方など漁業関係者の意見を基に、事業を実施しており、計画策定時には改修等予定していなかった年度においても、改修等の要望があり事業実施に取り組んでいる。 平成30年度においては、2件(赤岡水産機能施設荷捌所荷捌施設設置工事・手結支所製氷機更新工事)の施設改修・整備を行い、漁業活動の維持、向上等に取り組んだ。
18 漁業施設の整備	水産物供給基盤機能保全事業により漁港施設の保全工事を実施している。 改修整備率は「実績施設数/計画施設数」で示しており、平成30年度末で計画施設数18施設のうち実績施設数は5.5施設となっている。
19 新規漁業就業者の育成・支援	新規漁業就業者の確保については、法人経営体が短期研修を1人受け入れたが、就業までは至らなかった。市内の主要漁業形態では、1人での漁業就業は難しいことと住む場所の確保が必要という意見がある。 就業支援については、新規漁業就業に関する相談窓口が一元化され、平成31年4月から県庁に(一社)高知県漁業就業支援センターが設置されたので、このセンターと一層の連携を図り、新規就業者の確保に向けて取り組んでいく。

<b>20 漁場の保全</b>
<p>漁場生産力の回復を図るために、除去地区の海藻類の育成や掃海事業を実施している。          平成30年度の海藻類の育成被度は47%だった。また、食害生物(ウニ)の駆除については、豪雨・台風等の天候の関係で調整がつかず2回しかできず、食害被害(魚類)駆除及び母藻の設置については実施できなかった。引き続き、食害被害のウニ・魚類駆除の実施に努める。          掃海事業は例年どおり1回実施。今後も、継続して実施できるように調整を図っていく。</p>
<b>21 漁業者の所得向上</b>
<p>沿岸漁業総生産量は、県漁協赤岡支所は例年並み(前年比109%)の生産量だったが、県漁協吉川統括支所(前年比150%)および県漁協手結支所(前年比148%)の生産量が、平成29年度と比べて大きく増加しており、平成30年度は1,119tと目標値に大きく近づく生産量となった。          あわせて、全体生産額(漁獲高)も増加しており、漁業者の所得は向上が図れている。          (※平成30年度より吉川漁港漁協水揚げデータに反映されない法人経営の漁獲高を追加)</p>
<b>22 観光漁業の推進</b>
<p>地引き網漁業について、赤岡に1経営体あったが、後継者がいないことから平成28年度より休止の状況になっている。市の観光の中心を担ってきた地引き網の存続に向けた取組を関係機関と行う必要があるが、人員や漁業権の問題もあり、具体的な解決策はまだ見えていない。</p>
<b>23 水産加工品流通販売の推進</b>
<p>手結加工場の販売額および給食センターへの食材納入回数は順調に伸びており、目標値を大きく上回っている。          また、水産業に関する学習活動は予定通り2回行い、参加した小学生にとって水産業が身近な存在であると感じてもらえた。なお、地元産シラスの学校給食への納入には至っていないので、納入に向けて加工業者との協議を継続して実施していく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
<b>B</b>	<p>《基準》基本施策の成果            (A) 充分成果がでている            (B) ある程度成果がでている            (C) あまり成果がでない</p>	<p>漁港施設や水産機能施設の整備に努めており、順調に整備は進んでいるが、新規漁業就業者の確保には至っていない。          沿岸漁業総生産量は目標に達していないが目標に近い生産量であり、全体生産額(漁獲高)も近年増加しており、漁業者の所得向上は図れている。          学校給食への納入や水産業の体験学習も実施しており、地産地消の推進は図られている。</p>



施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	7. 商工業の振興

①施策の基本目標

後継者の育成・市内中核企業等を担う人材確保として、奨学金支援などの施策を展開し、市内企業への就職を促進、市への定着を図ります。  
 また、市内企業が職者に対する支援を充実し、必要な知識の習得やスキルアップに努めます。  
 地場産業や観光施設との連携により、魅力ある商業地・商店街づくりを促進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
24	新規企業立地件数 (香南工業団地)	件 (累)	目標		3	4	5	5	5	5	→	
			実績	1	3	4	5					
24	新規雇用者数 (香南工業団地)	人 (累)	目標		87	120	130	160	160	160	↘	
			実績	2	57	61	71					
25	製造品出荷額等	円/年	目標		500億	500億	500億	500億	500億	500億	↘	
			実績	419億	396億	371億	397億					
25	産業人材支援制度利用者数	件 (累)	目標		5	10	15	20	25	30	↘	
			実績	着手	0	1	1					
27	空き店舗の新規活用件数	件 (累)	目標		1	1	1	2	2	2	→	
			実績	0	0	0	1					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
25	懇談会の実施回数 (既存企業)	回	目標		2	2	2	2	2	2	↘	
			実績	2	2	1	1					
25	企業等訪問回数 (固定資産税助成等の説明)	人	目標		10	10	10	10	10	10	↗	
			実績	13	12	21	12					
25	未来人材奨学金支援事業申請 件数	件	目標		5	5	5	5	5	5	↘	
			実績	未策定	0	0	0					
26	コミュニティガイドブックへの掲載店舗 数	店	目標		130	130	200	200	200	200	↘	
			実績	130	130	130	119					
28	懇談会の実施回数 (新規企業)	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1					

④128の施策ごとの「成果と課題」

24 企業誘致の促進
<p>高知県と連携して香南工業団地の分譲交渉を行い、平成30年度は最終の区画も企業誘致(分譲)ができ、全5区画の企業誘致ができた。                  工業団地での新規雇用者については、立地企業と県、市が連携して雇用促進を図っているが、誘致企業の業種や規模の関係もあり総雇用者数が想定していた雇用者数より少なく、目標達成には至っていない。                  今後も増産やフル操業を見据えた追加雇用に向けて、県やハローワークと連携して会社説明会・面接会を共同開催するなど雇用支援に努めていく。</p>
25 既存企業の育成・支援
<p>平成30年度の製造品出荷額(H30年工業統計調査)は、397億円となっている。目標値に対して、79.4%の実績値であった。                  産業人材支援制度は利用実績は1件であり、目標値には至らなかった。平成30年度に事業が利用しやすいように補助対象事業の拡充を行ったが、成果は十分に出していない。また、平成28年度から既存企業の育成支援を図るために創設した未来人材奨学金支援事業も、創設から利用実績がないため、来年度は製造業に限定していた助成対象区分を、市内全事業所への新規就業者及び企業者も対象とするよう拡充し、事業の周知に努めていく。                  行政や企業間の情報交換の場として懇談会(既存企業)を開催しているが、平成30年度は香南市ものづくり会の懇談会を2月21日に開催し、7企業8名が参加し、講演会と高知職業能力開発短期大学の施設見学と情報交換等を行った。また、企業等訪問は12回行っており、固定資産税助成事業をはじめ、各種助成事業の説明や、雇用・経営状況、課題等の意見交換を行うことができた。今後も、継続して行うことで企業のニーズに合った事業紹介や支援制度の見直しを行い、雇用の促進と生産性の向上を図っていく。</p>

26 魅力ある商業地・商店街づくり
<p>平成23年度に商工会が市内のお店を紹介した「コミュニティガイドブック」を作成したが、その後更新が出来ていないため、更新に向けての協力体制の構築やデータでの作成も検討すべき等の意見が出されており、平成30年度はコミュニティガイドブックvol3を作成した。前回の130店舗に及ばず119店舗を掲載している。</p> <p>新たな取組として、街イベント「香南カーニバル」を開催し、500枚を予定していたチケットも537枚販売することができ、出店者・参加者共に好評であった。来年度も開催し、参加店舗の拡充とSNSや情報誌、ポスター・チラシと作成し、魅力ある商業地・商店街を創っていく。</p>
27 空き店舗の活用
<p>平成28年度に空き店舗対策事業費補助金交付要綱を制定し、市のホームページへの掲載や市内金融機関を訪問して事業説明を実施している。平成30年度は、サービス業での活用が1件あった。また、商工会商業部会で「事業継承、空き店舗対策の調査研究にかかる委員会」も継続して開催され、あわせて高知県が推進する事業継承診断の取組も、年間30件の目標に対して、28件の診断を行った。今後は、その28件の事業者への継続的な支援を実施する。</p>
28 新規企業の育成・支援
<p>懇談会については、香我美町立地企業交流会と称し開催し、8企業10名が参加し、「働き方改革セミナー」の講演会と中小企業の設備投資支援を始めとした各種支援事業の紹介を行った。</p> <p>また、香南市に新たに立地した2企業について、香我美町立地企業交流会への参加を呼びかけ入会していただいた。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p>	<p>《基準》基本施策の成果            (A) 充分成果がでている            (B) ある程度成果がでている            (C) あまり成果がでない</p>	<p>香南工業団地への企業誘致は図れたが、雇用者数は目標を下回った。</p> <p>製造品出荷額についても、目標に達しておらず、ルネサスの撤退により、平成30年度以降も厳しい状況が予想されるが、ルネサス高知工場承継先の丸三産業(株)の操業支援及び川谷刈谷工場用地の早期企業誘致を行うことで目標達成を目指すとともに、既存企業の生産性向上に繋がる各種支援事業の充実を図る。</p> <p>既存の支援施策は十分な成果が出ておらず、懇談会や企業等訪問の場を通じて利用の促進を図るとともに、支援策の見直しや新たな施策等を検討する必要がある。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	8. 観光の振興

①施策の基本目標

各観光施設・交流拠点のネットワーク化を図り、観光施設の連携促進を図ります。  
また、核となる観光拠点の整備や広域観光の推進を行い、市内各地に観光客が訪れる質の高い観光地づくりをめざします。  
あわせて、香南市情報発信及び国際観光の推進も行います。

②基本施策の「まちづくり指標」\_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
31	観光施設入込客数 (対象11施設)	人	目標		100万	120万	120万	120万	120万	120万	↘	
			実績	100.3万	104.7万	107.7万	106.2万					
37	大型クルーズ乗船客の本市への 誘客回数	回	目標		-	6	6	6	10	10	↘	
			実績	-	-	2	2					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
29	新たな観光拠点の整備	箇所 (累)	目標		0	0	0	1	1	1	-	
			実績	0	0	0	0					
30	ヤ・シィ特産品の製造・販売施設の 販売額	千円	目標		47,934	51,022	52,578	54,193	55,867	55,867	↘	
			実績	着手	10,628	16,356	26,868					
30	地産地消の拠点の集客数 (直売所:やすらぎ市・あぐりのさと・天然 色市場 または第2直売所)	人	目標		300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	↘	
			実績	292,238	281,486	270,069	228,398					
30	特産品の開発数 (集落活動センター推進事業)	件 (累)	目標		2	3	4	4	4	4	→	
			実績	2	3	3	4					
30	イベント集客数(どろめ・絵金・ みなこい・冬の夏まつり)	人	目標		60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	↘	
			実績	63,000	60,400	68,000	44,000					
30	主要観光施設入込数 (DMO協議会:3市9施設)	人	目標		設定	665,200	711,000	732,500	754,500	777,000	↘	
			実績	着手	633,544	675,051	707,185					
31	歴史を中心とした博覧会の開 催(観光客入込数)(対象15施設)	万人	目標		153.7	153.7	154.5	144.5	*	*	↘	
			実績	72	140.2	142.1	138.5					
32	観光施設連絡会の開催	回	目標		4	4	4	4	4	4	↘	
			実績	4	9	4	3					
33	サイクリングコースの設定	コース (累)	目標		3	4	5	6	6	6	↗	
			実績	着手	3	6	6					
33	ウォーキングコースの設定	コース (累)	目標		6	8	10	10	10	10	→	
			実績	4	8	10	10					
34	物部川フェスタの集客数	人	目標		5,000	5,000	6,000	7,500	7,500	7,500	↘	
			実績	5,000	4,000	3,700	5,000					
35	香南まるごと旨市の参加事業 所数	所 (累)	目標		35	36	36	37	37	37	↗	
			実績	35	36	42	46					
36	ボランティアガイド(案内人)数	人 (累)	目標		10	19	26	26	26	26	↘	
			実績	10	26	22	23					
37	年間プロモーション数	回	目標		6	6	6	6	6	6	↘	
			実績	3	1	2	3					

④128の施策ごとの「成果と課題」

29 新たな観光拠点の整備	<p>新たな観光拠点の形成として、三宝山の観光拠点化に向けて平成27年度より取組を開始している。平成29年度は土地及び建物所有者との使用賃借契約の締結(無償:H29.4/1~H34.3/31)と、運営事業候補者の公募を行い、5事業者より応募があり、全ての事業者を運営事業候補者として選定した。</p> <p>あわせて、香南市三宝山観光拠点化基本計画検討委員会を開催し、「基本計画」を策定し、検討委員会より市長に対して答申した。平成30年度に「基本計画」の整備計画の見直しを行い、三宝山エリア全体での観光拠点化を目指すこととし、整備を進めている。</p> <p>また、平成30年度はポスト幕末維新博に合わせ、ヤ・シィパークグランドデザインを策定した。今後はヤ・シィパーク周辺を観光拠点として再整備に取り組み、集客を図る。</p>
---------------	---

<b>30 観光拠点の強化</b>	
<p>平成28年6月に、物部川地域(南国市、香美市、香南市)において、観光活性化を面的に推進することを目的として「物部川DMO協議会」が発足し、その協議会と連携し観光拠点の強化を図っている。</p> <p>主要観光施設(香南市)のいち動物公園・アクトランド・絵金蔵への入込客数と地産地消の拠点における集客数については、昨年度以上の集客はあったものの目標値を上回ることができなかった。また、イベントの集客数も天候に恵まれず、みなこい港祭りが花火大会のみの開催となり、目標値の達成ができなかった。</p> <p>ヤ・シィ特産品の販売額については、(株)ものべみらいからの役員派遣による戦略の立て直しやランチメニューのリニューアルや山田高校とのコラボイベントを実施し、前年度を上回る販売額となったが、目標販売額には届かなかった。引き続き、ランチメニューの拡充と新商品の開発、店頭販売や販路拡大に向けた商品PR・人材確保に取り組む。</p> <p>集落活動センターにおける特産品を活用した商品開発については、新たにオレンジッタを開発することができた。</p>	
<b>31 歴史を中心とした博覧会の開催</b>	
<p>「志国高知 幕末維新博」の開催を通じて、香南市内の地域会場(絵金蔵と創造広場「アクトランド」)と多くの観光施設への誘客が図れたが、平成31年1月末の維新博の閉幕や7月豪雨の影響もあり、入れ込み客数は前年を下回り、目標値は達成できなかった。今後は、継続した企画展や魅力ある企画に一層取り組んでいくことと、外国人観光客への情報発信を行い、誘客促進を図る。</p> <p>※観光施設(対象15施設)</p> <p>(香南市) のいち動物公園・月見山こどもの森・ヤ・シィパーク・絵金蔵・香南市サイクリングターミナル(宿泊以外)・アクトランド・弁天座 (南国市) 西島園芸団地・県立歴史民俗資料館・パシフィックゴルフクラブ・道の駅風良里 (香美市) アンパンマンミュージアム・龍河洞・ザ・シックスダイアリー・かほくホテルアンドリゾート・べふ峡温泉</p>	
<b>32 観光施設間の連携</b>	
<p>観光施設連絡会を3回開催し、市内各地域の観光施設や宿泊施設等の相互交流を行った。また、SNSを活用したフォトコンテスト開催に向けた検討やインバウンドモデルコースの協議も行った。来年度以降も、各施設の情報共有とヤ・シィパークを中心とした観光クラスター形成に向けて観光関連事業者の連携した企画等の開催に向けた協議を行う。</p>	
<b>33 地域に親しむ観光の促進</b>	
<p>サイクリングコースは昨年度に2コース設定し、平成30年度の新たなコースの設定は行っていない。また、自転車を活用した観光への取組として、地域おこし協力隊を1名雇用し、市内のサイクリストや関係者に声掛けし、サイクリングを推進する団体「Maze-Cle」を設立した。主催共催含めて7回のイベント開催やサイクルオアシス(スタンド・空気入整備)を3施設(羽尾大釜荘・サイクリングターミナル・絵金蔵)に整備した。レンタサイクル利用者も目標2,100人に対し、2,156人に貸し出しを行い、今後も、サイクリストが安全・快適に楽しめるイベントや環境整備を進めていく。</p> <p>ウォーキングコースは、各町2コースずつを設定することができ、目標を達成している。今後は、ウォーキングのイベント開催および参加者の増加が図れるように取組を行っていく。</p>	
<b>34 物部川地域3市での観光振興</b>	
<p>平成29年度に物部川流域フェスタ実行委員会を「物部川DMO協議会」へ引き継ぎ、3市(南国市・香美市・香南市)と3市の観光協会・商工会を中心に、平成30年度も物部川フェスタ2018を開催(10/14)した。来場者数は5,000人と目標数の6,000人には至らなかったが、ステージイベントや3市ならではのうまいもの市を通して、広く市のPRや地域の活性化を図ることができた。</p> <p>来年度以降も同イベントの実施を予定しており、DMO協議会を中心として3市の関係者が連携し、観光振興を図る。</p>	
<b>35 活性化に向けたあらゆる産業との連携の強化</b>	
<p>市民と地域資源の総力を結集したビジネス支援としてカタログ販売に取り組んでいる。</p> <p>平成30年9月に作成した香南市ギフトカタログ通年号「まるごと旨市」では46事業所211品目を掲載し15,000部配布。カタログ販売額は119,000千円の実績となった。(内訳:ふるさと納税 115,593千円、地場促進 4,160千円)</p>	
<b>36 おもてなしの向上</b>	
<p>観光レクリエーション施設や史跡などを紹介する観光ボランティアガイド(案内人)は現在23名の登録があるが、全員がガイドできるには至っていない。まちあるきを13回(214人)の受け入れを行い、市内の歴史・文化的な施設等をおもてなしの心をもって案内を行い、好評を得ている。また、他ガイド団体主催の研修会に参加し、技術のスキルアップと県内他観光ガイド組織との連携強化も図れた。今後は、会員増に向けた勧誘と案内ができるガイド育成のための勉強会や研修会を開催していく。</p>	
<b>37 外国人観光客の受け入れ体制づくり</b>	
<p>大型クルーズ乗船客の本市への誘客は絵金蔵(2件)のみであった。また、年間プロモーション活動も「志国高知 幕末維新博 第二幕」商談会・県観光説明会・商談会【名古屋】・県観光説明会・商談会【東京】の3回となり、目標回数には至っていない。</p> <p>今後の取組として、旅行会社へのセールスを行い、香南市の知名度アップを図ることと、各観光名所や地元住民等と連携した体験モニターを実施し、市の魅力発信や集客数拡大を図る。</p>	

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
<b>C</b>	<p>《基準》基本施策の成果</p> <p>(A) 充分成果がでている</p> <p>(B) ある程度成果がでている</p> <p>(C) あまり成果がでていない</p>	<p>観光施設入込客数や観光客入込数は高い目標値を設定しているため、目標値には届いていない。関係機関と連携し集客に向けた取組は行っているが、平成30年度は天候にも左右され思うような集客が見込めなかった。平成30年度以降も、DMO協議会等と連携しながら、一層観光施設の磨き上げを行い、維新博終了後も一層の集客が図れるよう準備を進める。</p> <p>ヤ・シィ特産品(mana*mana)の販売額も大きく目標に届いていない。販売額の増加の取組として、新たな商品開発と氷菓の生産体制を確立するとともに、新規販路開拓に向けた外販の強化を行う。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	9. 住宅関連産業の振興及び定住環境の充実

①施策の基本目標

住環境及び市営住宅の整備、住宅の耐震化を行い、香南市に安心して住み続けてもらう定住環境の充実に努めるとともに、住宅関連産業の振興を図ります。  
また、「移住・定住促進」の住まいづくりとして、空き家活用等による効率の良い住宅提供をめざします。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
40	住宅耐震改修件数(工事)	棟	目標	/	110	110	120	120	130	130	↘	
			実績	100	70	89	68					
42	空き家バンク登録件数	棟 (累)	目標	/	3	5	20	40	50	55	↗	
			実績	着手	3	18	32					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
38	住宅リフォーム助成件数(予算)	件 (万円)	目標	/	67 (1,000)	75 (1,500)	75 (1,500)	-	-	-	↗	
			実績	78 (1,000)	57 (978)	89 (1,409)	100 (1,456)					
39	合併浄化槽および手摺設置件数(改良住宅)	棟	目標	/	24	30	30	30	30	30	↘	
			実績	10	20	14	14					
39	屋根外壁改修の棟数(改良住宅)	棟	目標	/	2	0	0	8	18	7	-	
			実績	8	2	0	0					
40	木造耐震診断件数	件	目標	/	120	120	120	120	120	120	↘	
			実績	113	127	94	83					
40	コンクリートブロック塀等への対策件数	件	目標	/	15	15	15	15	15	15	↗	
			実績	9	12	14	27					
41	老朽化した住宅等の除去件数	件	目標	/	20	20	20	20	20	20	↗	
			実績	23	20	20	28					
42	移住者向け支援住宅の整備件数(市管理)	棟 (累)	目標	/	1	2	1	1	1	1	→	
			実績	0	0	1	1					

④128の施策ごとの「成果と課題」

38 住環境の整備	市内に所有および居住する個人住宅を対象に、住宅のリフォーム工事に対して工事費(消費税抜)の20%(上限20万円)で補助を行った。平成30年度は100件の利用(交付額1,456万円)があった。補助金のニーズは高く、上限20万円を使用しない方より「限度内での再度の利用ができないか。」との要望も多くあったことから、補助金交付要綱の一部見直しを行い、再度補助金の利用ができるようにしていく。
39 市営住宅の整備	生活環境の保全および公衆衛生の向上に向けて、合併浄化槽の設置と福祉対応型改修工事として手摺りの設置を行った。平成30年度の目標は30戸だったが、実績は14戸となった。国庫補助金の活用を前提として事業を実施していることから、交付額の大小に実績が左右される結果となる。
40 南海トラフ地震への備え	住宅耐震診断の費用を補助し、個人住宅の耐震化の促進を図った。木造住宅は自己負担3千円(診断調査手数料)で、非木造住宅は3万円を補助している。木造耐震診断は83件の利用があったが平成28年度より減少傾向であり、制度の更なる周知が課題となっている。 また、住宅耐震改修(工事)は68棟の利用があったが、耐震診断同様に目標値を下回っている。両制度の周知はもちろんのこと、耐震診断の耐震診断だけで終わらず耐震化に繋げていくことと住宅耐震化の重要性を広報や自主防災組織連絡会、その他イベント等を通じて啓発していく。
41 老朽化した住宅等の除去	避難路等に面しており、倒壊により避難路を閉鎖する可能性のある著しく老朽化した住宅等の除去に要する経費に対して、補助金(補助率80%、上限1,645千円)の支給を行った。平成30年度は28件の利用があり、事業は順調に進んでいる。事業の問い合わせは多く、住民のニーズは大きい。老朽化が進んでいる住宅の所有者には積極的に制度の説明を行い、撤去を推進していく。



<b>42 移住者向け住宅の確保と促進</b>
<p>香我美町の東川・西川地区と夜須町の北部地区の中山間地域をモデル地域とし、市が空き家を10年間借上げ、移住者向けのお試し住宅の整備を1棟行い、平成30年1月から3組4人の利用実績がある。その内、2組3人が移住に至っている。</p> <p>また、香南市全域を対象とした「空き家バンク」の登録については、平成30年度は14棟(累計32棟)の登録を行うことができ、目標の達成と合わせて来年度以降の目標数値も大きく上方修正を行った。今後は、整備したお試し住宅の利用促進と「空き家バンク」の登録物件数の増加はもちろんのこと、地域住民や不動産業者等、民間との協力・連携を強化し、情報収集と情報発信に取り組んでいく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
<b>B</b>	<p>《基準》基本施策の成果            (A) 充分成果がでている            (B) ある程度成果がでている            (C) あまり成果がでない</p>	<p>定住環境の充実として、住宅耐震改修および木造耐震診断に取り組んでいるが、目標件数には至っておらず、引き続き、制度の周知に努める。</p> <p>住宅リフォーム助成事業は、市民ニーズも高く、制度の利用率も高く、住宅関連産業の振興も図られることから、今後も継続できるように取り組む。</p> <p>また、「移住・定住促進」のための空き家バンクも目標以上に確保できており、移住者の実績は毎年増加している。引き続き、空き家バンクの整備と地域での移住者の受け入れ体制の充実に努めていく。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	10. 分野を超えた連携

①施策の基本目標

様々な地域資源(生産物・風景・伝統文化など)の価値を再発見・創造し、新たな魅力づくり(付加価値化)や地域づくりの効果的な連携により地域経済の活性化を図ります。  
また、雇用支援、企業支援のための情報発信、情報入手の場の整備を行い、人材の育成・確保を図ります。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
43	市内生産物を活かした魅力ある新商品の開発	件 (累)	目標	／	着手	0	1	1	2	2	↗	
			実績	-	0	5	5					
44	食や体験、宿泊などを組み合わせた周遊モデルコース数	コース (累)	目標	／	4	6	8	10	10	10	↘	
			実績	着手	4	6	6					
45	産業人材支援制度利用者数 【再掲】	件 (累)	目標	／	5	10	15	20	25	30	↘	
			実績	着手	0	1	2					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
44	情報発信となるアンテナショップの設置	箇所 (累)	目標	／	0	0	0	0	0	1	-	
			実績	0	0	0	0					

④128の施策ごとの「成果と課題」

43 6次産業化による地産地消・外商の推進
農作物のブランド化の推進と加工品の開発に取組、平成30年度の新商品の開発は行っていないが、平成29年度に5件(山北みかんバター、山北みかんかき氷、山北みかんジュース、山北せとかジュース、山北せとかゼリー)の商品開発に成功し、山北みかんバターと山北みかんかき氷は販売を開始している。平成30年度は、山北みかんバターは5,342個、山北みかんかき氷は380個の販売を行った。 今後も引き続き、販売団体の生産・外商・運営体制を確立し、販売数の増加に取り組んでいく。
44 観光クラスターの整備
平成29年度に2つの周遊モデルコースを設定し、合計6コースとなっている。本年度新たなコースの設定はできていない、目標達成には至っていない。コース設定はもちろんのこと、設定に際しては、外国人観光客の受入体制の強化や観光施設が連携した魅力的な観光コースの設定をめざして取り組んでいく。
45 産業人材の育成・確保
産業の振興と雇用の維持を目的として、人材育成に係る研修への参加、講師招聘に係る経費について年間20万円を上限として補助(補助率1/2)する「産業人材育成事業」だが、平成29年度に1件の利用があった。平成30年度には、要項を一部改正し、公的団体以外の法人が実施する研修等を補助対象に追加したが、問い合わせが5件で利用は1件しかなかった。 広報不足も利用不振の原因と思われるので、HPへの掲載はもちろんのこと事業所への案内や説明・訪問先を拡げていく。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p><b>B</b></p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>山北みかんを生かした6次産業化に取組、商品開発や販売の開始ができており、今年度は、販売団体の生産・外商・運営体制を確立し、販売数の増加に取り組めた。 食や体験、宿泊などを組み合わせた周遊モデルコース(観光クラスター)の整備については、新たなコース整備は図れていないが、整備したモデルコースの魅力のPRには努めている。今後の取組として、予定している自転車やヤ・シイパークなどを活用した新たなクラスターの整備に分野を超えた連携を意識して、地域経済の活性化を図っていく。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	11. 幼年期の支援の推進

① 施策の基本目標

誰もが安心して子どもを産み育てることができ、子どもがいいきいと健やかに育つ環境を整えるために、家庭・地域・関係機関と連携しながら妊娠・出産・育児・就学前保育・教育をサポートしていく施策を展開します。  
すべての子どもがすこやかに成長・発展できるよう、また安心して子育てができるよう、妊娠期からの継続した相談や支援が受けられる体制の充実を図ります。

② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
47	乳児家庭訪問率 (H27年度のみ延訪問率)	%	目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	128.0	99.2	98.1	97.5					
48	地域子育て支援センター利用者数	人	目標	5,200	5,800	6,400	7,000	7,000	7,000		↗	
			実績	4,811	4,542	9,733	8,436					
48	市のHP(子育て情報サイト)のアクセス数	回	目標	3,000	4,000	5,000	6,000	6,000	6,000		↗	
			実績	着手	1,826	4,328	6,031					

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
46	パパママ教室参加率	%	目標	12.8	13.0	13.2	13.4	13.6	13.8		↗	
			実績	14.3	18.2	11.5	20.8					
47	育児教育相談利用者数(延)	人	目標	562	562	562	562	562	562		↗	
			実績	697	545	491	723					
48	ショートステイ施設数	件	目標	5	5	5	5	5	5		→	
			実績	3	4	4	5					
48	保育所の一時預かり数(延)	人	目標	838	838	838	838	838	838		↗	
			実績	1,001	977	1,217	1,229					
49	本の読み聞かせ回数 (健康対策課)	回	目標	12	12	12	12	12	12		→	
			実績	12	12	12	12					
49	本の読み聞かせ回数 (こども課)	回	目標	24	24	24	24	24	24		→	
			実績	24	24	24	24					
49	本の読み聞かせ参加者 (図書館およびボランティア)	人	目標	500	500	500	500	500	500		↗	
			実績	480	460	896	970					
49	図書館利用者数(登録者数) (野市・香我美)	人(累)	目標	15,000	22,000	23,000	24,000	25,000	26,000		↗	
			実績	14,510	14,411	22,763	23,431					
49	朝食摂取割合(3歳児)	%	目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0		↘	
			実績	95.3	94.7	96.6	93.9					

④ 128の施策ごとの「成果と課題」

46 妊産婦の安心で安全な環境づくりの推進
<p>パパママ教室を年3回開催し、参加率は20.8%と目標値を大きく達成している。教室では、妊娠・出産の経過やお産に役立つ呼吸法、妊娠中と授乳期の食生活などの講義、妊婦体験や沐浴等の実習を行った。妊婦同士の交流や、父親の役割を考える機会ともなり父親の育児参加の支援の場にもなっている。事業は継続して行い、事業の周知や関係する組織内部の連携強化に努める。</p> <p>母子健康手帳交付時には保健師が全届出者に面接を行っており、母子保健サービスを紹介したり、妊婦アンケートや面接時の状況から、訪問や相談につなげるなど妊娠期から出産後までの切れ目ない支援体制をとることができた。今後も継続して、支援を行っていく。</p>



<p><b>47 親と子の心と体の健康づくり</b></p> <p>乳幼児家庭訪問率は、生後4ヶ月までの訪問率を目標としている。新生児・乳児総数の対しての訪問率は97.5%である。実家への里帰りや長期入院の関係で4ヶ月までに訪問不可能な家庭もあり100%は困難だが、来所や育児相談等で面接したり、4ヶ月以降に訪問しており、把握率は100%である。</p> <p>健康対策課主催の育児相談・母乳相談については月1回開催し、延べ277人の利用があった。健康対策課の事業の一部は子育て支援の拠点として令和元年度に開設する総合子育て支援センターでの実施に向けて、こども課との連携強化を図っていく。また、こども課主催の育児教育相談(教育相談、ほのぼの相談、子育て支援センターでの相談)は723件の利用があった。両相談業務については、引き続き実施していく。</p>
<p><b>48 子どもと子育て家庭に優しい環境づくり</b></p> <p>保育所・幼稚園に通っていないお子さんの子育てをしている方の、子育て応援として「地域子育て支援センター」を開設し、8,436人の利用があった。引き続き、利用者の増加を図るとともに、総合子育て支援センターが令和元年度に開設されることから、支援が低下することなく、子育て家庭への専門性を生かした総合的な支援ができる拠点施設となるように努めていく。</p> <p>平成28年度に開設した、子育て情報サイトへのアクセス数は6,031件あった。想定より利用者が伸び悩んでいたが、メルマガ配信内容に「エプロンだよ」と「すこやか通信」を入れることで登録者数及びアクセス数が増加している。今後も情報内容の工夫を図り、子育て情報を多くの方に見ていただくよう努める。また、子育て支援の各種行政サービスや地域の子育てに関する情報をまとめた「香南市子育てガイドブック」の作成を行った。</p> <p>ショートステイ施設(子育て短期支援事業)は、昨年までの4ヶ所(児童養護施設2ヶ所、母子生活支援施設2ヶ所)に乳児院1ヶ所を追加し、計5ヶ所と契約を結んでいる。</p> <p>保育所の一時預かり数は1,229人で、目標以上の利用があった。利用者のニーズも多くなっているため、対応できるよう体制を整えていく必要がある。</p> <p>※子育て短期支援事業(ショートステイ)・・・保護者の方が疾病その他の理由により、家庭において児童を養育することが一時的に困難となった場合や、経済的な理由により緊急一時的に母子を保護することが必要な場合等に利用できる施設。</p>
<p><b>49 質の高い保育・教育の推進</b></p> <p>健康対策課とこども課の共催で、ブックスタート事業として、10ヶ月相談時にボランティアの協力を得て、読み聞かせと絵本の贈呈を行った。また、こども課主催で、各保育所・幼稚園では外部講師による読み聞かせを実施した。読み聞かせは、子どもたちに絵本の楽しさに気づかせたり、読書への興味関心を高めることで感性や親子のふれあい促進に必要な事業であり、今後も取り組んでいく。</p> <p>生涯学習課主催で、図書館主催事業や読書ボランティア団体の協力を得ながら子どもたちに読み聞かせを行い、970人の参加があり、目標を大きく上回った。読み聞かせのニーズは高く、読み聞かせとあわせてボランティア集団の育成を図っていかねばならない。</p> <p>3歳児の朝食摂取率は、平成29年度より減少し、93.9%と目標値には至っていない。乳幼児健診での指導や保育・幼稚園等と連携した食育事業を継続していく。</p>
<p><b>50 すべての子どもの成長を保障する環境づくり</b></p> <p>養護相談については、目標を定めるのではなく、必要な時に応じることができる体制をとっている。今後も、すべての子どもたちが平等で安全にすくすく育つ環境を整えていくことと、利用が増加するようであれば、事業所との相談体制の拡充を図る必要がある。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>パパママ教室などの妊産婦期の相談活動や育児相談(健康対策課・こども課)など妊娠・育児をサポートしていく施策を展開し、参加者も概ね予定通りであった。</p> <p>子育て支援センターの利用者も多く、子育て家庭への支援が図れている。来年度予定している、また、総合子育て支援センターの開設に向けては、支援が低下することがないように協議等を行っている。</p> <p>読み聞かせ等の活動も推進でき、図書館の利用者(登録者)数も目標を上回り、感性やふれあいの促進に必要な読書への興味関心が高まっている。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	12. 就学期の支援の推進

①施策の基本目標

豊かな心を持ち、たくましく健やかに子どもが育つ環境を整えるために、家庭・地域・関係機関と連携しながらサポートしていく施策を展開します。  
また、地域社会の見守り、就学支援、質の高い教育環境を整えることなどによって、香南市で子どもを育てたいと思える環境づくりを推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
52	児童クラブの利用者数	人	目標		340	385	385	385	385	385	↘	
			実績	336	359	375	370					
53	朝食接種割合(小3~小5)	%	目標		96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	↘	
			実績	95.9	95.0	95.1	95.0					
54	学校支援地域本部設置数	校 (累)	目標		5	6	7	8	12	12	→	
			実績	4	5	6	7					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
51	凧揚げ・地引網等参加者数	人	目標		1,150	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	↗	
			実績	1,132	1,073	1,150	1,300					
51	スポーツ少年団の団体数	団体	目標		26	27	28	28	28	28	↘	
			実績	27	26	27	26					
51	スポーツ少年団の会員数	人	目標		580	600	610	620	630	634	↘	
			実績	597	543	518	532					
51	夏休みこども教室の開催数	回	目標		22	23	24	25	25	25	↗	
			実績	21	25	25	25					
53	親子料理教室開催数	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1					
54	児童生徒の夢や役立ち意欲の割合 (強い肯定)(小学6年生)	%	目標		86.0	86.5	87.0	87.5	88.0	88.5	↘	
			実績	88.9	89.4	91.4	73.4					
54	児童生徒の夢や役立ち意欲の割合 (強い肯定)(中学3年生)	%	目標		75.0	75.2	75.5	76.0	76.0	76.0	↘	
			実績	64.5	74.1	75.0	46.0					
55	不登校児童生徒の発生率 (小学校)	%	目標		0.95	0.90	0.80	0.70	0.60	0.50	↗	
			実績	1.31	0.95	1.31	0.62					
55	不登校児童生徒の発生率 (中学校)	%	目標		6.38	5.00	4.50	4.00	3.50	3.50	↘	
			実績	5.03	6.25	5.05	5.41					
55	スポーツ大会開催数 (小中高高校生対象)	回	目標		3	3	3	3	3	3	↘	
			実績	3	3	2	1					
55	スポーツ大会参加団体数	団体	目標		60	60	60	60	60	60	↘	
			実績	60	60	60	12					

④128の施策ごとの「成果と課題」

51 豊かな人間形成を育む環境づくり	<p>地域社会との関わりが重要なことから、各種イベント等の開催に取り組んでいる。 三世交代イベントとして凧揚げ・栗狩り大会を実施し、参加者数は昨年度および目標も上回ることができた。また、スポーツ少年団については、団体数は目標どおりだが、会員数が伸び悩んでおり目標値には至っていない。団体が継続して活動できる環境づくりを行うとともに、参加者への声掛けにも努めていく必要がある。 夏休み親子教室は予定以上に開催できた。今後も、参加者のニーズを把握し、人気のある教室を開催していく。</p>
52 子ども・親・家庭に優しい環境づくり	<p>児童クラブを5つの小学校区で実施し、共働き家庭等の児童(6年生まで)を放課後から18時まで預かり、平成30年度は370人の利用があった。安定的な放課後児童支援員の確保と今後の児童数の推移を予測して、定員を超えている児童クラブについては、新たな施設整備が必要である。</p>

53 親と子の心と体の健康づくり
<p>小学校3～5年の朝食摂取割合は、95.0%で目標値には至っていない。朝食摂取の改善を図るために副読本の活用や子どもから家庭へ波及する取組を検討・実施していく必要があるとともに、学年に応じた食育事業を継続していく。</p> <p>また、親子料理教室として、各学校での開催と別に、香南市全体でも1回開催(12月1・2日の2日間)し、22家庭の参加者があり、参加者には好評であった。</p>
54 学校と地域の連携による教育環境づくり
<p>学校支援地域本部は予定通り7校で設置できている。地域本部では、地域の人材を積極的に活用し、保護者や地域の方とあいさつ運動や交通指導に取組、地域の見守り体制の強化に繋がっている。今後は、事業の拡充とPTA活動の活性化を図るとともに、地域への啓発活動も行っていく。</p> <p>また、全国学力学習状態調査での、「児童生徒の夢や役立ち意欲の割合(強い肯定)」では、中学3年生は46.0%と昨年度より大きく減少しており、小学校6年生においても73.4%と目標を下回る数値となっている。今後は実績の分析と対策を検討し取り組む必要がある。</p>
55 すべての子どもの成長を保障する環境づくり
<p>不登校児童生徒の発生率について、中学校については不登校生徒数が減少した学校と増加した学校があるが、結果として昨年度より発生率は高くなっている。小学校においては、0.62%と大きく減少している。学校・家庭・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーが連携を図り、不登校児童生徒の不出ない取組と相談しやすい状態を増やしていく。</p> <p>また、不登校児童生徒だけでなく、すべての子どもの安心できる環境づくりや健やかな成長を育む環境づくりに努めていく。</p> <p>社会教育においては、市長杯サッカー大会(小学生・中学生対象)が荒天のため中止となり、市長杯中学校招待野球大会(12チーム・183名参加)の1回しか開催できず、スポーツ大会の参加団体数も結果目標を下回る実績となった。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
<b>B</b>	<p>《基準》基本施策の成果</p> <p>(A) 充分成果がでている</p> <p>(B) ある程度成果がでている</p> <p>(C) あまり成果がでない</p>	<p>家庭・地域・関係機関と連携し、学校支援地域本部の設置や児童クラブの利用者数はほぼ目標は達成できた。また、地域社会と関わる各種イベントや教室等も開催し、たくましく健やかに子どもが育つ環境づくりに取組、児童生徒の役立ちたいという意欲は平成28年度より上がっている。</p> <p>しかし、不登校児童の解消や児童生徒の夢や意欲を持つ割合の向上はあまり改善が見られない。学校や関係機関と連携を図りながら、全ての子どもが安心できる環境づくりに努めていく。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	13. 成年期の支援の推進

① 施策の基本目標

誰もが参画できる地域社会を形成し、新たな出会いがあり、家庭を築き、安心して子どもを産み育てられ、生きがいを感じられる生活環境づくり、活気ある地域社会の形成を支援する施策を展開します。  
また、地域の活力の源となる人口を増やすことが重要であり、香南市に移り住む方を応援し、受け入れ体制づくりの充実を図ります。

② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
57	出会いの場の参加人数	人	目標	/	60	60	60	60	60	60	↗	
			実績	着手	77	179	141					
61	移住者 (移住相談窓口を通じた数)	組	目標	/	2	5	10	20	21	22	↗	
			実績	1	6	18	29					

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
56	健康診査受診者数 (20~39才)	人	目標	/	110	110	110	110	115	115	↗	
			実績	143	135	112	111					
56	外出支援サービスでの外出支援利用率(下段:利用者数)	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100 (5)	100 (7)	100 (6)	100 (6)					
57	出会いの場の開催回数	回	目標	/	3	3	3	3	3	3	↘	
			実績	着手	3	3	2					
57	婚姻件数	件	目標	/	148	150	152	154	156	158	↘	
			実績	142	139	161	129					
57	合計特殊出生率	人	目標	/	1.50	1.54	1.57	1.60	1.62	1.64	↗	
			実績	1.48	1.52	1.30	1.58					
58	パパママ教室参加率【再掲】	%	目標	/	12.8	13.0	13.2	13.4	13.6	13.8	↗	
			実績	14.3	18.2	11.5	20.8					
59	各種教室の開催回数	回	目標	/	170	170	170	170	170	170	↗	
			実績	179	613	431	484					
59	市長杯・教育長杯への参加者数	人	目標	/	500	520	550	570	590	590	↗	
			実績	480	501	490	769					
59	スポーツ少年団認定員資格の取得者数	人(累)	目標	/	66	66	66	68	68	68	↗	
			実績	64	71	73	79					
59 60	地域ボランティア登録者数	人(累)	目標	/	100	100	100	100	100	110	↗	
			実績	103	124	135	141					
59	町民運動会参加団体数	団体	目標	/	41	42	42	43	43	44	→	
			実績	41	40	43	42					
59	市美術展への出品者数	人	目標	/	230	230	230	230	230	230	↘	
			実績	225	204	182	208					
59	健康診査運動習慣(2回) (H29年度まで上段:男性・下段:女性) (H30年度から合算で20~39才が対象)	%	目標	/	34.0 20.0	34.0 24.0	18.0	20.0	20.0	20.0	→	
			実績	27.0 9.4	22.9 12.0	37.5 8.0	18.0					
61	移住促進HPのアクセス回数	回	目標	/	300	4,000	5,000	65,000	65,000	65,000	↗	
			実績	着手	3,582	49,825	67,226					
61	空き家バンク登録件数【再掲】	棟(累)	目標	/	3	5	20	40	50	55	↗	
			実績	着手	3	18	32					
61	移住者向け支援住宅の整備件数(市管理)【再掲】	棟(累)	目標	/	1	2	1	1	1	1	→	
			実績	未実施	0	1	1					

④128の施策ごとの「成果と課題」

<p>56 いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進</p> <p>健康で安心して暮らせる環境づくりの第1歩として、健康診査(20～39歳)を実施し、111名が受診した。若い世代から生活習慣病のリスクが高い方も多く、事業を利用することで、疾病を早期発見、早期治療し、結果として壮年期の死亡の減少、医療費等の軽減につながる為、今後も引き続き取組を継続していく。</p> <p>また、社会参加のための外出支援サービスを実施しており、平成30年度は6人の利用があった。障害を持った方の在宅での生きがい活動を助長するとともに、介護者の負担の軽減および利用者の自立と生活の質の確保が図れるよう継続して支援を行っていく。</p>	<p>57 出会い・新しい家庭づくり支援の推進</p> <p>香南市恋いめぐりあい応援事業を活用し、ボランティア団体(よりあいこ家)が「出会い・結婚の窓口相談」を開設し、129名の利用者があった。また市主催の婚活セミナーを開催し、12名の参加者があった。引き続き、相談事業とセミナーを開催していくことと、近隣市町村と連携を図り結婚の機運の醸成と出会いの場の提供の強化を図っていく。</p> <p>婚姻件数においては、129件で目標値には達していない。近年で最も少ない数値となっている。</p> <p>合計特殊出生率は、1.58で例年より大きく上昇、目標値も達成できている。出生数も240人と多いことが大きな要因とも考えられる。今後は、出生率についての分析を行うとともに、引き続き、子どもの出産と育児に対する環境の支援体制を図っていく。</p>
<p>58 親と子ども・働く環境との両立支援の推進</p> <p>ババママ教室を年3回開催し、参加率は20.8%と目標値を大きく達成している。教室では、妊娠・出産の経過やお産に役立つ呼吸法、妊娠中と授乳期の食生活などの講義、妊婦体験や沐浴等の実習を行った。妊婦同士の交流や、父親の役割を考える機会ともなり父親の育児参加の支援の場にもなっている。事業は継続して行い、事業の周知や関係する組織内部の連携強化に努める。</p> <p>母子健康手帳交付時には保健師が全届出者に面接を行っており、母子保健サービスを紹介したり、妊婦アンケートや面接時の状況から、訪問や相談につなげるなど妊娠期から出産後までの切れ目ない支援体制をとることができた。今後も継続して、支援を行っていく。</p>	
<p>59 生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援</p> <p>こうなんスポーツクラブへ委託しているスポーツ教室は、毎年要望等を受け変更しており、平成30年度は17教室で延484回開催した。また、各種スポーツ大会として、市長杯など、バドミントン、ヨット、ソフトバレーボール、パークゴルフ、ラージボール卓球、ベタンク、ゴルフ、テニスなど多岐にわたる種目を行っており、参加者は目標550人に対し、769人の参加があった。今後も今まで通りの地道な広報活動を続け、スポーツに触れる機会を提供していく。</p> <p>市美術展への出品者数は、昨年度よりも増加しているが目標の達成には至っていない。市内サークルへの呼びかけを一層行い、芸術・文化活動の推進も図りたい。</p> <p>ボランティア登録数については、香南市ボランティアセンターへの登録者数であり、目標値を大きく上回っている。主な活動支援内容は、読書ボランティア活動であり、保育所・幼稚園への読み聞かせ活動で今後も継続して行なっていくが、登録者の方々の高齢化が進んでおり、後継者の育成が課題となっている。</p> <p>運動習慣については、平成30年度から男女合算の数値に変更し、全体での運動習慣の向上にむけて、啓発活動を行っていく。</p>	
<p>60 配慮が必要な人、誰もが安心して生活できる地域社会の形成支援</p> <p>ボランティア登録数については、香南市ボランティアセンターへの登録者数であり、141人の登録があり目標値を大きく上回っている。主体は社会福祉協議会であり、地域住民のボランティア活動の発掘・仲介等を行なった。</p>	
<p>61 移住者ウエルカム支援の推進</p> <p>平成30年度の移住者(移住相談窓口を通じた数)は、29組(50人)で目標を大きく上回った。</p> <p>移住促進HPと空き家バンクに平成28年度から取り組んでおり、平成30年度は67,226回のHPアクセスと16棟(延32棟)の空き家バンクの登録を行うことができていく。また、移住PR動画も地域住民や市内事業者、各種団体の協力を得て作成し、広く周知されている。今後も、継続的に市の魅力を発信しながら、香南市に興味関心を持ってもらい、足を運んでもらえるような情報発信と移住者の受入・定住につながる仕組みづくり(空き家バンクの増加、新たな移住支援制度など)を行っていく。</p>	

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">A</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>成年期の世代が活気ある地域社会の形成を図れるように、各種教室や大会を実施し、予定通りの参加者があった。また、教室や大会への参加以外にも運動習慣は欠かせないものであるが、健康診査受診者の内、運動習慣がある方は1/4以下であり、男女関係なく成年期からの運動習慣の必要性を広報等を通じて一層周知していく。</p> <p>出会いの場の開催や移住者を増やす取組は目標を上回る成果を生んでおり、今後も引き続き取り組んでいく。</p> <p>婚姻件数は例年より少なかったが、合計特殊出生率は目標及び昨年度を大きく上回っている。今後、婚姻と出生率等の分析を行っていきたい。</p>



施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	14. 熟年期の支援の推進

①施策の基本目標

賑わいとゆとりを感じ、健康で世代間交流や地域社会に貢献する喜びを感じられる環境づくりを推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
62	特定健診受診率の向上 (40～64歳)	%	目標	/	55.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	↘	
			実績	30.9	29.4	29.2	29.8					
62	健康診査運動習慣(2回) (H29年度まで上段:男性・下段:女性) (H30年度から合算で40～74才が対象)	%	目標	/	33.0	34.0	43.0	43.0	43.0	43.0	↘	
			実績	31.8 26.5	35.3 25.8	28.0 23.0	37.8					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
62	メタボリックシンドローム該当者割合(男)	%	目標	/			30.0	30.0	30.0	30.0	↘	
			実績				32.0					
62	メタボリックシンドローム該当者割合(女)	%	目標	/			13.0	13.0	13.0	13.0	↘	
			実績				15.4					
62	睡眠で休養がとれている割合	%	目標	/			75.0	75.0	75.0	75.0	↘	
			実績				72.0					
63	地域ボランティア登録者数【再掲】	人 (累)	目標	/	100	100	100	100	100	100	↗	
			実績	103	124	135	141					
63	風揚げ・地引網等参加者数【再掲】	人	目標	/	1,150	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	↗	
			実績	1,132	1,073	1,150	1,300					
63	町民運動会参加団体数【再掲】	団体	目標	/	41	42	42	43	43	44	→	
			実績	41	40	43	42					
64	社会参加のための外出支援サービス支援利用率(下段:利用者数)【再掲】	人	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100 (5)	100 (7)	100 (6)	100 (6)					

④128の施策ごとの「成果と課題」

62	いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進	<p>特定健診の受診率(40～64歳)は、平成30年6月月報報告からの暫定値であるが、目標値より低くなっており、より一層の啓発が必要である。若い世代への個別アプローチや受診日数が少なくすむがん検診とのセット化などにも積極的に取り組んでいく。また、運動習慣については、平成30年度から男女合算の数値に変更し、全体での運動習慣の向上にむけて、啓発活動を行っていく。</p> <p>新たな指標として、メタボリックシンドローム該当者割合と睡眠で休養がとれている割合を追加した。共に、いきいきと健やか過ごすために必要な取組であるが、実績は目標値に至っていないので、健診等を通じて、啓発を行う。</p>
63	生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援	<p>三世代での交流イベントへの参加は生きがいを感じることでできる活動であり、幼年期、成年期の取組と重複するが、風揚げ・栗狩り大会、町民運動会への参加者数および団体数はほぼ目標通りだった。</p> <p>ボランティア登録数についても、成年期と重複となるが、香南市ボランティアセンターへの登録者数であり、目標値を大きく上回っている。主な活動支援内容は、読書ボランティア活動であり、保育所・幼稚園への読み聞かせ活動で今後も継続して行なっていくが、登録者の方々の高齢化が進んでおり、後継者の育成が課題となっている。</p>
64	配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援	<p>成年期と同様に熟年期においても、社会参加のための外出支援サービスを実施しており、平成30年度は6回の利用があった。障害を持った方の在宅での生きがい活動を助長するとともに、介護者の負担の軽減および利用者の自立と生活の質の確保が図れるよう継続して支援を行っていく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
C	<p>《基準》基本施策の成果</p> <p>(A) 充分成果がでている</p> <p>(B) ある程度成果がでている</p> <p>(C) あまり成果がでない</p>	<p>特定健診は自身の健康状態を確認し、健康づくりにつながる重要な健診であるが、その受診率が目標値より低くなっている。熟年期は、運動習慣や健康への不安も生じる時期であり、各種健診の周知を行うことはもちろんのこと、支援や受診率の向上を図っていく必要がある。各種がん検診と特定健診のセット健診を実施するなど市民の利便性を考慮した実施に努めていく。</p> <p>熟年期の世代が自ら参画し活気ある地域社会の形成を図れるように、各種教室や大会を実施した。参加者はほぼ目標どおりであり、今後も参加者の増加に努めていく。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	15. 高齢期の支援の推進

① 施策の基本目標

健康で長生きできる環境、地域交流や世代間交流を楽しめる環境づくりによって、香南市に住んで良かったと思える、地域での支え合いのある安全・安心な環境づくりを推進します。

② 基本施策の「まちづくり指標」\_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
67	介護ボランティア参加者数(延)	人 (累)	目標	/	645	670	695	720	880	928	↗	
			実績	628	711	908	825					
69	いきいきクラブ事業参加者数(延)	人	目標	/	5,700	5,700	5,700	5,700	5,810	5,810	↘	
			実績	5,665	5,642	5,591	5,592					

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
65	特定健診受診率の向上(65~74歳)	%	目標	/	55.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	↘	
			実績	47.8	41.1	45.3	44.7					
65	口腔機能向上教室および高齢者食生活改善栄養教室参加数	人	目標	/	250	250	250	90	100	70	↘	
			実績	239	246	73	95					
65	パークゴルフ・ペタンク参加者数	人	目標	/	150	155	160	165	170	175	↘	
			実績	131	123	150	155					
65	健康診査運動習慣(2回) (H29年度まで上段:男性・下段:女性) (H30年度から合算で40~74才が対象)	%	目標	/	50.0 44.0	52.0 45.0	43.0	43.0	43.0	43.0	↘	
			実績	47.8 40.6	45.7 43.8	44.2 39.4	37.8					
66	凧揚げ・地引網参加者数【再掲】	人	目標	/	1,150	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	↗	
			実績	1,132	1,073	1,150	1,300					
66	町民運動会参加団体数【再掲】	団体	目標	/	41	42	42	43	43	44	→	
			実績	41	40	43	42					
67	在宅介護手当・介護用品支給利用者数	人	目標	/	25	25	25	25	25	25	↗	
			実績	25	35	29	35					
68	認知症サポーター養成講座受講者数	人	目標	/	150	150	450	270	270	270	↘	
			実績	390	188	441	268					
68	認知症カフェ参加者数	人	目標	/	50	50	550	580	610	610	↘	
			実績	47	76	499	447					
69	地域ボランティア登録者数【再掲】	人 (累)	目標	/	100	100	100	100	100	100	↗	
			実績	103	124	135	141					
69	シルバー人材センター登録者数	人 (累)	目標	/	255	259	264	269	274	284	↘	
			実績	255	263	228	218					

④ 128の施策ごとの「成果と課題」

65 健康で長生きできる環境づくりの推進
<p>特定健診の受診率(65~74歳)は、平成30年6月月報報告からの暫定値であり、目標値より低くなっているものの、この世代は若い世代(40~64歳)よりは、健診を受けるという健康意識が定着している。また、運動習慣については、平成30年度から男女合算の数値に変更し、全体での運動習慣の向上にむけて、啓発活動を行っていく。今後も地域の健康推進員やまちづくり協議会、自治会等の地区組織の協力を得ながら受診勧奨に取り組んでいく。</p> <p>軽スポーツの推進として、パークゴルフ・ペタンクを推進しており、大会への参加者は155人で目標には至らなかったが、引き続き呼びかけ等を行い参加者を増やしていく。</p>
66 世代間交流を楽しみ生活文化の伝承ができる地域社会づくりの推進
<p>三世代での交流イベントへの参加はいきがいを感じることでできる活動である。地引網大会の開催が困難となっているため、昨年度より栗拾い大会を実施しており、各期別の取組と重複するが、凧揚げ・栗狩り大会、町民運動会への参加者数および団体数はほぼ目標どおりだった。全ての世代において参加者が増加すること、高齢期については自治会等を通じてPRしていく。</p>

<p><b>67 親・子・孫で支える地域社会づくりの推進</b></p>
<p>高齢者のボランティア活動への積極的な参加を促すことで自身の健康増進および介護予防を推進し、生き生きと元気に暮らすことができる地域社会をつくることを目的として、介護ボランティア制度を実施しており、参加者は825人と目標以上だった。活動に応じてポイントが付与され、それが香南市ギフトカタログの商品と交換できることも魅力であり、新たなボランティアの発掘に加え、受け入れ先の拡大が必要となっている。</p>
<p><b>68 配慮が必要な人、誰もが安心して生活できる地域社会の形成支援</b></p>
<p>高齢者が不安なく生活できる環境づくりとして、認知症サポート養成講座を開催した。昨年度は市内の小中学校やPTA、職域に拡大し開催し、441人の受講者があったが、平成30年度は、268人と目標値を大きく下回った。今後も事業を継続して行なうことと、昨年度同様に、職場や小中学校等での講座の開催と認知症への理解とサポートができる体制づくりに努めていく。</p> <p>また、認知症カフェも開催しており、平成29年度より外部委託(テ-サービス施設1箇所)を行い、週1回開催されている。そして、従来の市直営の月1回と合わせて、カフェ参加者の実績は増加しており、447人が利用した。今後も、ケアマネージャーや社会福祉協議会、民生委員協議会などの関係機関と連携し、事業の普及に努めていく。</p>
<p><b>69 地域で支え合いがあり、香南市に住んで良かったと思える環境づくりの推進</b></p>
<p>高齢者の自主活動を支援する取組として、いきいきクラブ事業に取り組んでおり、延5,592人が事業に参加したが、目標とする参加者には至らなかった。運営支援の継続と新規地区への支援に取り組んでいく。</p> <p>また、定年後の再就職支援としてシルバー人材センターへの登録を呼びかけており、平成30年度の登録者数は218人。こちらも目標値には至ってなく、センターの周知はもちろんのこと会員への研修も行っていく。</p> <p>※いきいきクラブ・・・ 地域において介護予防に資する活動拠点の場を提供し、ボランティア等の人材の育成並びに介護予防に資する地域活動を行う組織。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p style="text-align: center; font-size: 2em;"><b>B</b></p> <p>《基準》基本施策の成果  (A) 充分成果がでている  (B) ある程度成果がでている  (C) あまり成果がでていない</p>	<p>介護ボランティアや地域ボランティアなどは目標値を上回っており、地域での支え合いのある環境づくりは図れている。また、地域交流や世代間交流のイベントの開催においては、目標どおりの参加があり、今後も参加者の増加に向けて一層取り組んでいく。</p> <p>特定健診等の受診や運動習慣については、目標値に達しておらず、引き続き健康意識を高める啓発活動を行っていき、健康で長生きできる環境づくりを進める。</p>



施策大綱名	第4章 都市基盤
基本施策名	16. 公園・緑地と景観形成、環境保全の整備

① 施策の基本目標

市域は主に山林を有する「自然環境・山林ゾーン」と農用地等の「農業ゾーン」、市街地が集中する「市街地ゾーン」の大きく3つの地域構成に分類されます。  
市民が安全で豊かな、恵まれた環境のなかで生活を営むためには、それぞれの地域で自然環境が守られることが不可欠であり、その自然環境の保全と活用に努め、人と自然の調和の取れたまちづくりを推進します。

② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
70	物部川流域の育成林の整備面積(水源の森整備事業)	ha (累)	目標		10	15	20	25	30	35	↗	
			実績	5	10	15	22.8					
70	遊休農地面積 (平成30年度計画策定)	ha	目標		減少	減少	減少	減少	減少	減少	↘	
			実績	50	45	42	48					

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
70	農地パトロールの実施回数	回	目標		90	90	108	108	108	108	↘	
			実績	90	90	90	100					
71	都市計画マスタープランの策定	-	目標		未策定	策定	-	-	-	-	-	
			実績	未策定	未策定	策定	-					
71	公園・緑地などの環境整備	回	目標		150	150	150	150	150	150	↗	
			実績	150	170	174	173					

④ 128の施策ごとの「成果と課題」

70 自然的土地利用と都市的土地利用の推進	<p>物部川流域の育成林の整備として水源の森整備事業(搬出間伐)を行っており、平成30年度は7.8ha(累計22.8ha)を実施した。来年度は、香我美町撫川・奥西川で50haを実施予定している。 農地パトロールを100回実施し、遊休農地の実態把握及び発生防止等に努めた。 また、遊休農地の面積は平成30年度は増加している。高齢化等により耕作を放棄する農家も今後増加することが予測され、関係機関と協力して新規就農者の掘り起こしや後継者の育成を図る必要がある。</p>
71 緑豊かな都市空間の創出	<p>平成28年度から取り組んでいた『都市計画マスタープランの策定』については、平成29年度に策定を行っている。都市計画マスタープランでは、まちづくりの理念や都市計画の目標とあわせて、全体構想・地域別構想を定めており、今後はマスタープランにそった、都市空間を創出していく。 公園などの環境整備として、除草作業や公園遊具の修繕等を行った。今後も、環境整備を図り、市民に親しみやすい、市民が集まる公園整備に努めていく。</p>

⑤ 基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p><b>B</b></p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>都市計画マスタープランの策定により、香南市の土地利用の基本的な方向性が定められた。今後は、人と自然の調和の取れたまちづくりを目指して、マスタープランに基づき事業の計画と実施を図っていく。 適正な自然的土地利用が図られるよう、育成林の整備や耕作放棄地の解消に努め、一定の成果は得られているが、自然環境や耕作地の荒廃を防ぐため、さらなる対策を図っていく。</p>

施策大綱名	第4章 都市基盤
基本施策名	17. 水質保全等活用保全の推進

①施策の基本目標

水資源は、市民の生活にとっても、また、動植物の生態系や地盤、土地などの形成にとっても大切な自然資源です。その水資源は、河川、ため池、地下水が主なものであり、その利用は、生活用水、農業用水、工業などの産業用水が主なものとなっています。処理や利活用しているそれら水資源は、降った雨が元になっていることから降雨に対する考え方を明らかにし、その処理や利活用、保全に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)	
73	汚水処理人口普及率	%	(累)	目標	/	93.7	94.2	94.9	95.6	96.3	97.0	↘	
				実績	93.2	93.9	90.2	94.8					
73	合併浄化槽設置補助基数	基		目標	/	80	80	80	80	80	80	↘	
				実績	69	66	63	72					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)	
72	農業水路の修繕に関する補助件数	件		目標	/	20	20	20	20	20	↘		
				実績	16	25	25	17					
72	国・県への河川整備要望行動	回		目標	/	3	3	3	3	3	↗		
				実績	3	3	3	4					
72	工業用水条件整備事業箇所整備進捗率	%	(累)	目標	/	90.0	93.0	95.0	100.0	100.0	100.0	↘	
				実績	87.0	88.0	90.0	91.8					
73	農業集落排水の加入率	%	(累)	目標	/	60.0	61.0	61.0	62.0	62.0	63.0	↘	
				実績	59.9	61.5	60.6	60.9					
73	簡易水道施設の更新件数	件		目標	/	5	5	統合	2	統合	統合	-	
				実績	11	7	6	未統合 2					
73	汚水処理区域整備面積	ha		目標	/	3.0	3.0	5.0	5.0	5.0	↘		
				実績	5.0	1.2	6.2	0.0					

④128の施策ごとの「成果と課題」

72 治水・利水整備の促進	水路(青線)の修繕に関する補助件数は目標の20件に対し、17件の実績があった。国・県への河川整備要望行動については目標3回に対し、4回行い、今後も継続して要望していく。 また、工業用水条件整備事業の整備進捗率は、目標値には至っていないが、ほぼ計画どおり事業は実施できている。
73 生活関連水の処理の整備	汚水処理人口普及率は昨年度汚水処理区域の整備面積が増加したが、ほぼ計画どおりとなっている。また、合併浄化槽の補助基数は72基となり、目標には至っていないが、申請のあったものについては補助できている。 農業集落排水の加入率に大きな変化はなく、こちらもほぼ目標どおりとなっている。簡易水道施設については、平成30年度統合の予定だったが、令和2年に見直しを行い、本年度は2件の更新を行った。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
C	<p>水資源の確保の第1歩として、水路や河川の改修が必要不可欠であり、改修や要望活動は計画以上に行った。引き続き、補助や要望行動に取り組んでいく。</p> <p>汚水処理人口普及率は、昨年度に公共下水道事業汚水処理区域の整備区域が広がったため普及率が低下することとなったが、平成30年度は目標値どおりとなった。また、合併浄化槽の設置補助も目標には至っていないが、申請分についてはすべて補助を完了した。</p> <p>水道事業についてはH30年3月に策定した水道事業の経営戦略をふまえ、今後、香南市水道事業基本計画(老朽施設対策及び地震対策計画など含む)を作成し、良好な水道水の安定供給を図っていく。</p>

《基準》基本施策の成果  
(A)充分成果がでている  
(B)ある程度成果がでている  
(C)あまり成果がでない

施策大綱名	第4章 都市基盤
基本施策名	18. 交通網体系の整備

① 施策の基本目標

豊かな自然に恵まれた市域で、元気で活力ある市民生活や市民活動が営まれるためには、交通や物流あるいは人と人との交流を支える骨格交通網が不可欠となります。  
 そのため、人口規模や産業規模に見合った道路網計画や公共交通などを構築する必要がある、幹線道路や生活道路を含めた道路網の整備や公共交通サービスの充実を図ります。

② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
75	市営バス利用者数	人	目標		38,500	39,000	40,000	40,000	40,000	40,000	↘	
			実績	38,066	39,287	38,369	35,862					

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
74	緊急輸送路・避難路としての橋梁整備箇所	橋	目標		2	2	2	2	2	2	↘	
			実績	2	0	1	1					
74	老朽化・損傷に対する市道修繕箇所	箇所	目標		12	12	12	12	12	12	↗	
			実績	12	60	64	77					
75	ごめんなはり線利用者数 (市内5駅の乗車数)	人	目標		-	-	-	-	-	-	↗	
			実績	343,718	325,969	329,505	334,895					

④ 128の施策ごとの「成果と課題」

74 道路網の整備	<p>緊急輸送路・避難路の整備については、現在のところは橋梁の整備を優先しており、市道の整備までには至っていない。橋梁については、平成30年度は野市町の佐古川橋の整備を行った。                  市道の老朽化・損傷については、小規模のものまで含めると77箇所の修繕を行った。</p>
75 公共交通の充実	<p>市営バスについては、3年に1度ダイヤの見直しを行っており、直近では平成29年10月に改正を行った。見直しにおいては、利用者アンケートやヒアリング調査を実施し、路線と時刻表の整理を行った結果、別役から奈良地区は予約式運行を継続し、羽尾地区では学校への通学便の3便以外をデマンド運行に設定している。また、市営バスホームページから各バス停時刻表や、ごめん・なはり線時刻表、東部交通安芸線時刻表の検索ができるようになっている。                  市営バスの利用者数は、35,862人と昨年度より減少している。改正に伴い利用者数が減少した路線・停留所があることや、豪雨災害による影響が考えられる。                  ごめん・なはり線については、毎年の目標値は定めていないものの、ごめん・なはり線活性化協議会の集計データ(5駅の乗車数)を見ると、利用実績は増えており、334,895人の利用があった。</p>

⑤ 基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p><b>B</b></p> <p>《基準》基本施策の成果                  (A) 充分成果がでている                  (B) ある程度成果がでている                  (C) あまり成果がでない</p>	<p>幹線道路等の新設や緊急輸送路・避難路としての市道整備は行っていないが、橋梁の整備については計画を立てて実施している。また、老朽化・損傷に対する修繕も必要に応じて実施した。                  公共交通サービスについては、前年度から減少傾向であり、平成30年度もに比べて若干利用者は減少となったが、概ね目標どおりであった。利用者が新ダイヤに慣れるよう地区での市バス乗り方講習や聞き取り調査を実施し、より多くの方に利用していただけるよう、今後もニーズに沿った運行を心がける。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	19. 保幼小中連携の推進

①施策の基本目標

保育所、幼稚園、小中学校が連携し、0歳から15歳までの15年間を通して、子どもの発達段階に応じた系統的な教育を進めることで、コミュニケーション能力、規範意識及び自尊感情等を身に付けた子どもたちを育成するとともに、親の子育てを支援していきます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
76	交流活動を組織として位置づける (よくできた、できたの回答割合)	%	目標	/	55.0	60.0	60.0	70.0	70.0	80.0	↘	
			実績	31.0	31.0	41.0	52.0					
76	交流活動の際、育てたい力の共通 理解(よくできた、できたの回答割 合)	%	目標	/	55.0	60.0	60.0	70.0	70.0	80.0	↘	
			実績	51.0	51.0	56.0	56.0					

※教職員を対象とした連携についてのアンケート調査より

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
76	連携担当者会の実施	回	目標	/	2	2	2	2	2	2	→	
			実績	2	2	2	2					
76	小学校教諭による保育士体験 の実施	校	目標	/	8	8	8	8	8	8	→	
			実績	8	8	8	8					

④128の施策ごとの「成果と課題」

76 保幼小中連携(一貫)教育の推進
<p>教職員を対象とした連携のアンケートを実施しており、「交流活動を組織として位置づける」「交流活動の際、育てたい力の共通理解」が「よくできた、できた」と回答した数値は、計画策定時よりは向上しているが、目標達成までは至っていない。                  連絡担当者会は予定通り2回実施できた。また、小学校教諭による保育士体験は全ての学校で実施できた。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p><b>B</b></p> <p>《基準》基本施策の成果                      (A) 充分成果がでている                      (B) ある程度成果がでている                      (C) あまり成果がでない</p>	<p>教職員を対象とした連携についてのアンケートの結果では、目標に達していない。アンケート結果から改善に向けた取組が必要である。                  連携担当者会や保育士体験の実施以外にも「香南市保幼小中連携カリキュラム」及び「香南市保幼小連携(一貫)プログラム」や香南市保幼小中連携子育て・教育推進事業など、連携に関する会議や事業の実施はできている。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	20. 家庭や地域と連携した教育の推進(チーム学校の取組)

①施策の基本目標

家庭生活の困窮等で厳しい環境にあり、学力や基本的な生活習慣の未定着など、子どもたちを取り巻く負の連鎖環境を教育によって断ち切ることをめざします。不登校の児童・生徒に対しては、関係機関と連携を図りながら、改善に向けて取組を推進します。

家庭や地域社会が、子どものしつけや基本的な生活習慣の確立等の教育基盤となる役割をしっかりと担うとともに、子どもを守り育てる地域住民の連帯感を再構築し、子どもたちが家庭や地域の豊かな愛情のなかで安心して成長できる地域コミュニティの実現をめざします。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
77 81	子育て親育ち講演会への参加者数	人	目標	/	600	610	620	630	640	650	↘	
			実績	596	687	442	549					
79 81	不登校児童・生徒の割合(小学校)【再掲】	%	目標	/	0.95	0.90	0.80	0.70	0.60	0.50	↗	
			実績	1.31	0.95	1.31	0.62					
79 81	不登校児童・生徒の割合(中学校)【再掲】	%	目標	/	6.38	5.00	4.50	4.00	3.50	3.50	↘	
			実績	5.03	6.25	5.05	5.41					
80	こうなんファミリーサポートセンター会員数(平成28年度開始)	人(累)	目標	/	30	50	80	110	130	150	↘	
			実績	-	42	56	74					
80	学校支援地域本部設置校数【再掲】	校(累)	目標	/	5	6	7	8	12	12	→	
			実績	4	5	6	7					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
77	香南市チャレンジ塾の開設数	教室	目標	/	2	2	2	4	4	4	→	
			実績	2	2	2	2					
78	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	↘	
			実績	50.0 75.0	100.0 100.0	100.0 100.0	50.0 75.0					
78	言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	85.0 75.0	85.0 75.0	85.0 75.0	100.0 100.0	100.0 100.0	100.0 100.0	↘	
			実績	75.0 50.0	100.0 100.0	100.0 100.0	62.5 50.0					
80	市のHP(子育て情報サイト)のアクセス数(再掲)	回	目標	/	3,000	4,000	5,000	6,000	6,000	6,000	↗	
			実績	着手	1,826	4,328	6,031					
80	コミュニティ・スクール設置数	校	目標	/	0	0	1	3	3	12	→	
			実績	0	0	0	1					
81	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(3歳児)	%	目標	/	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	↘	
			実績	95.3	94.7	96.6	96.2					
81	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(小学6年生)	%	目標	/	88.0	89.0	90.0	92.0	94.0	96.0	↗	
			実績	87.3	97.3	85.9	96.6					
81	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(中学3年生)	%	目標	/	85.0	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0	↗	
			実績	83.7	83.7	82.7	92.0					
82	放課後児童クラブの利用者数【再掲】	人	目標	/	340	385	385	385	385	385	↘	
			実績	336	362	375	370					
82	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の指導員等研修会実施回数	回	目標	/	6	6	6	6	6	6	↘	
			実績	6	6	6	5					

④128の施策ごとの「成果と課題」

77 厳しい環境にある子どもたちへの支援

子育て親育ち講演会として、保育所・幼稚園ごとに企画した講演会と香南市全体の就学前の子どもを持つ保護者を対象とした講演会を実施した。参加者数は549人で目標数には至っていないが、参加者の家庭教育力の向上が図れた。

香南市チャレンジ塾は目標通り2教室開催できた。学習機会を設けることにより、学習内容だけでなく学習習慣定着へのきっかけづくりや進路への意欲づけにつながっている。



78 学校の組織マネジメント力の強化
<p>学校経営計画をもとに、取組状況や成果を点検・検証し外部の専門員や地域の人材の力を活用しながら取組を推進している。また、全教職員が教科の壁、学級や学年の壁を越えて相互に協議し、組織的な授業改善や生徒指導を行うことや、学級経営の状況や課題、または学力傾向や課題について、全小中学校において、全教職員の間で共有し組織的に取り組んでいるが、アンケート結果においては、目標値に達していない、分析や対策が必要である。</p>
79 不登校の改善
<p>保育所・幼稚園・学校と教育支援センター「森田村塾」、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療や福祉等の関係機関と連携を図り、子どもや保護者に対する支援の充実を図った。また、「森田村塾」では、学校との連携を密にし、学校生活への復帰を支援したり、各学校においては、児童生徒理解を深め、温かい学級づくりに取り組めるようアンケートやいじめ調査等を実施したりと、継続的に取組を進めている。</p> <p>小学校の不登校発生率は昨年度より大きく下がったが、中学校においては増加しており、小学校・中学校、ともに目標値には届いておらず、新規不登校の減少・抑制に向けた取組を継続する必要がある。</p>
80 子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築
<p>平成28年度からこうなんファミリーサポートセンター事業を実施し、子育てを住民同士が協力・支援していく体制を進めており、会員数は74人と昨年度より増加しているが、目標数には達していない。新たな会員の登録に向けて通信の作成や一層事業の啓発に取り組む。</p> <p>学校支援地域本部事業の取組は、目標どおり実施できた。また、既に設置している学校についても、それぞれに昨年度より取組が進んでいる。</p> <p>また、平成28年度に開設した、子育て情報サイトへのアクセス数は6,031件あった。想定より利用者が伸び悩んでいたが、メルマガ配信内容に「エプロンだよ」と「すこやか通信」を入れたことで登録者数及びアクセス数が増加している。今後も情報内容の工夫を図り、子育て情報を多くの方に見ていただくよう努める。</p> <p>コミュニティ・スクールの設置については、予定通り1校(赤岡小学校)が設置し、導入促進事業に2校(赤岡中学校・野市小学校)が取り組んでいる。</p>
81 家庭の教育力の向上
<p>家庭教育学級や子育て講座などの開催や子育て支援センターやスクールカウンセラーなどの活動を通じて、家庭の教育力の向上や子育て相談・援助を行ってきたが、講演会への参加者及び不登校児童・生徒の割合は目標には至らなかった。</p> <p>毎日朝食を食べる児童生徒の割合は、対象の内、3歳児が目標達成には至ってなく、小学6年生・中学3年生においては目標値を達成している。</p> <p>各学校での工夫した取組や、今後も食育活動に取組、朝食摂取の重要性を啓発していく。</p>
82 放課後の子どもの生活・学習支援の充実
<p>放課後児童クラブの利用者数は370人で概ね予定通りの利用があった。また、野市東小学校区のニーズの増加により、野市東小第1児童クラブの再開に向けて開設準備を行った。年間を通じて学習支援者を配置し、継続的に学習をサポートすることで、放課後の学習習慣が定着している。</p> <p>市及び県主催の研修会に5回、延べ125名が参加した。支援員及び補助員が職務を遂行する上で必要な知識及び技能の習得と、その実践の基本的な考え方や心得を学ぶことができた。今後も継続して研修会を実施・参加していく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p> <p>《基準》基本施策の成果  (A) 充分成果がでている  (B) ある程度成果がでている  (C) あまり成果がでない</p>	<p>学校の組織マネジメント力は、外部の専門員や地域人材を活用しながら取組を推進し強化できているが、不登校の改善や朝食の摂取率の向上など、数値としては、まだまだ十分な成果に至っていない。不登校の改善は、すぐ効果が出るものではないが、引き続き、児童生徒への支援を強化することで不登校の改善を図っていく。</p> <p>来年度以降は、計画を前倒して、すべての学校に学校支援地域本部の設置を予定している。学校によって温度差はあるが、家庭や地域と連携した取組で子どもたちの成長を守り育てていく。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	21. これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進

①施策の基本目標

「香南市乳幼児教育政策プログラムⅡ」に基づき、生涯にわたる人格形成の基礎となる豊かな心情・意欲・態度を育むための保育・教育活動を保護者と連携して推進します。  
 子どもたちに生きて働く「知識・技能」を習得させ、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を推進するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善に努めます。  
 また、生涯にわたって健康でいきいきとした生活をおくるため、家庭や地域と連携して就学前からの望ましい生活習慣、食習慣、運動習慣を確立するための健康教育や障害のある児童生徒の能力や可能性を十分に伸ばすために、関係機関と連携を図りながら、一人ひとりの発達や障害の種別等に応じた特別支援教育を推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
83	子育て支援センター利用者数	人	目標	/	5,200	5,800	6,400	7,000	7,000	7,000	↗	
			実績	4,811	4,542	8,171	8,436					
84	ICT機器を活用した校内授業研修の実施	%	目標	/	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→	
			実績	75.0	100.0	100.0	100.0					
87	いじめが解消した割合 (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	70.0 90.0	70.0 90.0	75.0 90.0	80.0 90.0	90.0 92.0	90.0 92.0	↘	
			実績	67.3 90.9	64.1 66.7	79.1 77.0	96.8 63.9					
88	肥満傾向率(小学5年生)	%	目標	/	12.0	11.8	11.5	11.1	11.0	10.0	↗	
			実績	12.5	10.7	8.9	11.0					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
83	市職員研修及び園内研修の実施回数	回	目標	/	52	52	52	52	52	52	→	
			実績	52	44	62	52					
84	言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合(上段:小学校・下段:中学校) <b>【再掲】</b>	%	目標	/	85.0 75.0	85.0 75.0	85.0 75.0	100.0 100.0	100.0 100.0	100.0 100.0	↘	
			実績	75.0 50.0	100.0 100.0	100.0 100.0	62.5 50.0					
84	言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んでいる学校の割合(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	50.0 80.0	60.0 80.0	70.0 85.0	80.0 90.0	90.0 95.0	100.0 100.0	↘	
			実績	37.5 75.0	37.5 75.0	25.0 50.0	50.0 75.0					
85	自分にはよいところがあると思うか(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	↗	
			実績	77.7 61.1	80.4 67.8	76.5 65.8	88.8 79.8					
85 86	将来の夢や目標を持っているか(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	95.0 85.0	95.0 85.0	95.0 85.0	95.0 85.0	95.0 85.0	95.0 85.0	↘	
			実績	89.4 79.1	89.4 74.1	72.1 75.0	88.4 74.7					
87	人権教育について計画的に実施することができた学校数(割合)	%	目標	/	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→	
			実績	100.0	100.0	100.0	100.0					
88	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(3歳児) <b>【再掲】</b>	%	目標	/	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	↘	
			実績	95.3	94.7	96.6	96.2					
88	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(小学6年生) <b>【再掲】</b>	%	目標	/	88.0	89.0	90.0	92.0	94.0	96.0	↗	
			実績	87.3	97.3	85.9	96.6					
88	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(中学3年生) <b>【再掲】</b>	%	目標	/	85.0	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0	↗	
			実績	83.7	83.7	82.7	92.0					
88	地域人材を活用しての料理教室などの取組を実施した学校数(割合)	%	目標	/	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→	
			実績	100.0	100.0	100.0	100.0					

89	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合(上段:保幼・中段・小学校・上段・中学校)	%	目標	100.0 70.0 50.0	100.0 80.0 70.0	100.0 90.0 80.0	100.0 100.0 90.0	100.0 100.0 100.0	↘
			実績	100.0 60.0 28.3	100.0 80.4 29.3	100.0 60.6 30.1	100.0 86.0 36.8		
89	スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引きつぎの実施校数(割合)	%	目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→
			実績	100.0	100.0	100.0	100.0		

④128の施策ごとの「成果と課題」

83 就学前教育の充実	
<p>子育て支援センターの利用者数は、児童・保護者あわせて目標を上回る8,436人(延)の利用があり、子育てに関する情報提供や相談支援が図れた。「総合子育て支援センター(仮称)」の設置に向けて、より柔軟な子育て支援体制の構築に取り組んでいく。</p> <p>職員研修や園内研修の実施も、52回と予定通り開催した。年間を通じた研修会実施により、研修を積み上げ、園内での成果と課題を共有し、組織で保育を作る意識の高まりと保育者の質の向上につながった。今後も、継続して研修会を実施していく。</p>	
84 確かな学力の育成	
<p>ICT機器の導入については、すべての学校で導入し、授業改善に向けて取り組んでいる。平成30年度も野市東小学校でICT活用による授業研究会を開催し、多くの参加者があった。ICT活用の良さに気づき、各所属等で活用が広がっており、取組は活発になっている。今後、ICT機器の使用に不慣れた教職員もいるので、活用例とを提示し、少しでも研究授業の中で活用できるようスキルアップさせていくことが必要となっている。</p> <p>言語活動について、学校全体で取り組んでいる割合は、全国学力・学習状況調査(学校質問紙調査)結果からは、小中学校とも目標を下回っている。1校の占める割合が高く、結果低い評価となっている。</p>	
85 豊かな心の育成	
<p>学力・学習状況調査「児童・生徒質問紙調査」の結果では、「自分にはいいところがあると思うか。」の質問に対しては、小学校・中学校ともに目標を上回っており、道徳教育や日々の褒め言葉の取組により自尊感情の向上が図られている。</p> <p>しかし、「将来の夢や目標を持っているか。」の質問に対しては、共に目標値を下回っており、職場体験や社会に貢献する意識を持たせる取組を行っているが、まだまだ自分に自信が持てない子どもたちが多い。今後も自尊感情や規範意識の向上に向けて、継続的な取組を行っていき、将来の夢と自ら語れる子どもの育成へつなげていく。</p>	
86 キャリア教育の推進	
<p>体験的な職業理解、職場体験学習などを通じて、地域社会を支える仕事や産業についての理解を深めてきた。また、子ども議会の開催などによりまちづくりについて考え、社会参画への態度や意欲を高める取組を行った。しかし、全国学力・学習状況調査(児童・生徒質問紙調査)の結果では、「将来の夢や目標を持っているか。」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しているか。」の質問に対して、小学校・中学校ともに目標を下回っている。まだまだ自分に自信が持てない子どもたちが多い。</p> <p>今後も自立意識や社会参画意識の向上に向けて、継続的な取組を行っていく。</p>	
87 人権教育の推進	
<p>全学校において人権教育年間計画を作成し、人権を基盤とした学校づくりに取り組むことができた。しかし、いじめが解消した割合は、小学校では目標を上回ることができたが、中学校においては目標達成には至っていない。</p> <p>互いを認め合い支え合う人間関係づくりや、人権に関わる課題の解決をめざした一人ひとりを大切に人権教育に取組、いじめを解消するよう取り組んでいく。</p>	
88 健やかな体の育成と健康の増進	
<p>肥満傾向率は、小学5年生を対象としており、各校で工夫した取組が推進されており、昨年度より増加はしているが、目標は下回っている。日常生活の中に体を動かす機会を設ける取組を図っていきたい。</p> <p>「早ね 早おき 朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着を図る取組をはじめ、各校で工夫した取組を行っている。毎日朝食を食べる児童生徒の割合は、平成29年度に引き続き3歳児は目標の達成には至っていないが、小学6年生、中学3年生においては、家庭科授業や食育指導、また学校だよりや保健だより等を使い、朝食の大切さを保護者に伝えており、共に、実績は上昇しており、目標を達成している。今後も食についての指導の充実に努め、朝食摂取の重要性を啓発していく。</p>	
89 特別支援教育の推進	
<p>個別の指導計画を保育所・幼稚園は100%作成し、一人ひとりの教育的ニーズに対応した特別支援教育を進めたが、小学校・中学校は目標値に達しなかった。</p> <p>スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引きつぎは全ての学校で実施でき、関係者間の情報および認識の共有化、教育支援の円滑な意向ができた。</p>	

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
B	<p>豊かな心情・意欲・態度を育むための保育・教育活動を保護者と連携して取り組んでいるが、アンケート結果からまだまだ、将来の夢や目標を持っていない子どもたちが多く、今後も連携や授業改善に努めていく。いじめが解消した割合も、中学校については目標には至ってなく、引き続き、家庭や地域、学校と連携し取組を推進していく。</p> <p>しかし、子育てや教育の環境として、支援センターやICT機器の活用、職員研修・人権教育の実施などは充分図られており、今後も関係機関と連携しながら、一人ひとりの能力や可能性を伸ばす取組を図る。</p>



施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	22. きめ細かな教育の推進

① 施策の基本目標

教育課題の解決のために、保育や教育の専門的知識を一層深めるとともに、広く豊かな教養と実践的指導力を高めるなど、教職員の資質・指導力の向上に努めます。  
 保育所・幼稚園、学校が地域の教育力を生かし、創意工夫した教育活動を展開することにより、保護者や地域から信頼される保育所、幼稚園、学校づくりを推進します。

② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
90	授業の内容が良くわかると回答した児童生徒の割合(国語) (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	85.0 65.0	85.0 70.0	85.0 70.0	85.0 70.0	85.0 70.0	85.0 70.0	-	
			実績	85.0 63.7	87.7 79.8	85.1 71.0	- -					
90	授業の内容が良くわかると回答した児童生徒の割合(算数・数学) (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	87.0 65.0	87.0 67.0	87.0 68.0	87.0 69.0	87.0 70.0	87.0 70.0	↗ ↘	
			実績	87.1 60.3	88.7 79.8	82.9 56.5	88.0 65.0					
91	学校支援地域本部設置校数 【再掲】	校 (累)	目標	/	5	6	7	8	12	12	→	
			実績	4	5	6	7					
92	学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合 (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	88.0 75.0	90.0 79.0	90.0 80.0	90.0 80.0	90.0 80.0	90.0 80.0	↗	
			実績	86.4 72.9	89.7 78.7	84.3 75.4	91.7 85.9					

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
91	保育所・学校評議員連絡会(中学校区)の開催数	校区	目標	/	2	2	3	4	4	4	↘	
			実績	2	2	2	2					
91	コミュニティ・スクール設置数 【再掲】	校	目標	/	0	0	1	3	3	12	→	
			実績	0	0	0	1					
92	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合【再掲】 (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	70.0 80.0	↘	
			実績	50.0 75.0	100.0 100.0	100.0 100.0	50.0 75.0					
93	不登校児童・生徒の割合(小学校)【再掲】	%	目標	/	0.95	0.90	0.80	0.70	0.60	0.50	↗	
			実績	1.31	0.95	1.31	0.62					
93	不登校児童・生徒の割合(中学校)【再掲】	%	目標	/	6.38	5.00	4.50	4.00	3.50	3.50	↘	
			実績	5.03	6.25	5.05	5.41					

④ 128の施策ごとの「成果と課題」

90 教職員の専門性・指導力の向上	<p>各小中学校の学校改善プランに基づく取組を指導・支援することで、授業研究を中心にした授業改善に取り組んだ。また、東部教育事務所と連携し学校改善プランを検証することでPDCAサイクルを意識した教育活動にも取り組んだ。                  学力・学習状況調査では、平成30年度は「授業の内容がよく分かる」の国語の項目が削除されており、評価は行っていないが、算数・数学においては昨年度より大きく上昇しており、小学校では目標達成でき、中学校においても目標に大きく大きく近づいている。</p>
91 保育所・学校運営の充実	<p>学校支援地域本部事業の取組は、目標どおり実施できた。また、既に設置している学校についても、それぞれに昨年度より取組が進んでいる。                  保育所・学校評議員連絡会は3回(3中学校区)を予定していたが、2回(2中学校区)でしか開催できなかった。連絡会では、市の教育方針や評価の視点等を確認し、情報交換や協議を行った。今後の取組として、4中学校区での開催が早期にできるように取り組んでいく。                  コミュニティ・スクールの設置については、予定通り1校(赤岡小学校)が設置し、導入促進事業に2校(赤岡中学校・野市小学校)が取り組んでいる。</p>
92 生徒指導の充実	<p>全教職員が教科の壁、学級や学年の壁を越えて相互に協議し、組織的な授業改善や生徒指導を行っている。しかし、学級経営の状況や課題を全教職員の間で共有し、全ての小中学校が組織的に取り組むことができた学校の割合は、昨年度より大きく減少している。対象母体が少ないこともあり、割合の減少率は大きくなるが、弱肯定の回答についての取組が必要である。                  学力・学習状況調査では、学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合は昨年度より大きく上昇し、小学校・中学校共に、目標を達成している。国からの指定をうけて、香南市全体で新規不登校数の抑制のための取組「魅力ある学校づくり調査研究事業」と、市が実施する「中学校区連携事業」の取組を重ねて展開し、その成果が出ていると思われる。今後も、児童生徒の理解を深め、学校に行くのが楽しくなるような温かい学級・学校づくりに取り組んでいく。</p>

93 教育相談・支援体制の充実

保育所・幼稚園・学校と教育支援センター「森田村塾」、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療や福祉等の関係機関と連携を図り、子どもや保護者に対する支援の充実を図った。また、「森田村塾」では、学校との連携を密にし、学校生活への復帰を支援したり、各学校においては、児童生徒理解を深め、温かい学級づくりに取り組めるようアンケートやいじめ調査等を実施したりと、継続的に取組を進めている。小学校の不登校発生率は昨年度より大きく下がったが、中学校においては増加しており、小学校・中学校、ともに目標値には届いておらず、新規不登校の減少・抑制に向けた取組を継続する必要がある。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
<b>B</b>	<p>《基準》基本施策の成果                      (A) 充分成果がでている                      (B) ある程度成果がでている                      (C) あまり成果がでていない</p>	<p>教職員の専門性・指導力の向上を図るために、各主任・担当や話し合いなど授業研究を中心とした授業改善に取り組んでいる。「授業の内容が良くわかる」「学校に行くのは楽しい」と思う児童生徒の割合は前年度よりも大きく上昇している。今後も、この取組の継続と取組の成果が生かされるよう、生徒指導や教育相談・支援体制の充実を一層図っていく。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	23. 安全な教育環境での教育の推進

①施策の基本目標

地震等による災害の発生時に、迅速かつ適切な対応ができる危機管理体制の整備・充実を図り、子どもたちの安全確保と保育所、幼稚園、学校の安全管理に努めます。また、子どもたちの事故や事件を未然に防止するための教育を推進します。校舎等の耐震補強や改修、教材の整備などについて積極的に取組、子どもたちが安心して学べる環境整備に努めます。また、教育施設等における遊具等の点検・補修等、施設の安全確保に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」\_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
95	小・中学校における非構造部材の耐震化	% (累)	目標	/	50	75	91.7	100	100	100	↘	
			実績	50	58.3	83.3	83.3					
95	小・中学校におけるトイレの洋便器化	% (累)	目標	/	75	75	100	100	100	100	↘	
			実績	50	66.7	66.7	83.3					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
94	多様な状況での避難訓練を計画的に実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100					
94	学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の防災教育が実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100					
95	通園・通学路の点検を定期的実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100					
95	学校内の施設等に関する安全点検が定期的実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100					

④128の施策ごとの「成果と課題」

94 防災教育等の推進	<p>年々防災教育に対する意識は高まっており、授業中・休み時間、登下校中安堵多様な状況で、すべての学校で年3回以上の避難訓練の実施が確実に出来ている。今後は、各学校の実態に適した避難訓練を展開していくことが課題として考えられる。</p>
95 保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備	<p>令和元年度に100%となるよう、非構造部材の耐震化を行っているが、平成30年度は目標値には届いていない。トイレの洋便器化についても、平成30年度に100%を予定していたが、目標値には至らなかった。来年度以降も計画的に改修を行い、保育・教育の場の環境整備の充実に努めていく。 また、全ての学校において教職員による月1回の通学路の点検と、学校内の施設等に関する安全点検、補修等を実施し、安全確保に努めた。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
B	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>全ての学校で防災教育を中心とした取組が行われ、防災や交通安全についての意識が高まった。小・中学校における非構造部材の耐震化や小・中学校におけるトイレの洋便器化も目標には至っていない。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	24. 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり

①施策の基本目標

市民が生きがいを見つけ自己実現を果たすため、各年代に応じた様々な学習機会を提供するとともに、情報の提供・相談機能の強化、指導者の育成・人材活用を行います。  
また、地域住民の交流・地域活動の場としての施設の整備改修を計画的に進めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
96 104	夏休み子ども教室の開催 (講座数)	講座	目標		21	25	25	25	25	25	↗	
			実績	21	25	25	28					
96 104	夏休み子ども教室の開催 (参加者)	人	目標		300	302	304	306	308	310	↗	
			実績	299	342	389	430					
97 103	生涯学習人材バンクの登録者 数	人 (累)	目標		0	50	100	150	200	200	↘	
			実績	0	0	1	22					
99	図書館の入館者数	人	目標		72,000	74,500	76,000	77,500	79,000	80,200	↘	
			実績	68,825	72,000	71,131	72,685					
99	図書館の貸出冊数	冊	目標		121,000	126,500	125,500	127,500	129,000	130,000	↘	
			実績	116,714	111,144	114,523	116,336					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
96	三世交代事業参加者数(風 揚げ)	人	目標		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	→	
			実績	1,000	1,000	1,000	1,000					
97	いきいきセミナーの開催	講座	目標		4	4	4	4	4	4	→	
			実績	4	4	4	4					
98	各種教室の開催回数	回	目標		170	170	170	170	170	170	↘	
			実績	161	129	123	118					
98	各種教室の延べ参加者数	人	目標		4,550	4,580	4,610	4,640	4,670	4,700	↘	
			実績	4,530	4,253	5,132	3,327					
100	地区公民館等の利用者数	人	目標		41,000	41,200	41,400	41,600	41,800	42,000	↘	
			実績	40,622	44,552	39,957	40,507					
102	生涯学習課ホームページ更新 回数	回	目標		15	20	25	30	40	50	↗	
			実績	13	16	35	52					
103	読書ボランティア等登録者数	人	目標		100	100	100	100	100	100	↘	
			実績	76	86	93	93					
104	こどもよさこい参加者数	人	目標			100	100	100	100	100	↘	
			実績			91	98					
105	社会体育施設の障害者用トイ レの整備	箇所 (累)	目標		5	6	7	8	8	8	→	
			実績	5	5	6	7					

④128の施策ごとの「成果と課題」

96 ライフステージに対応した学習の充実(家庭教育・学校教育・社会教育)	<p>豊かな心を持ったたくましい子どもを育成するため、体験活動や地域間交流を実施している。 特に、夏休みには3ヶ所で教室を開催し予定通り28講座を開催し、それぞれの教室は定員オーバーになる状態で実施され、参加者も目標を大きく上回る430人が参加し、大変盛況だった。また、世代間交流事業として1月には新春風揚げ大会を開催し、予定通りの参加者があった。今後も、継続して事業を実施していく。</p>
97 生きがいを得る学習機会の充実	<p>いきいきセミナーでは目標どおり4講座を開催できた。また、いきいきセミナーや高齢者学級、中央生活学級でのアンケート調査の実施などを通じて、市民の学習ニーズを把握し、多様な学習機会の提供に努めることができた。 しかし、生涯学習人材バンクの登録者数は22名で、目標には大きく届いていない。そのため、今後は文化サークルだけでなくスポーツ団体等にも周知を図り、引き続き、人材バンクへの登録を促していく。</p>

<b>98 現代的課題に対応した学習機会の充実</b>	
<p>社会教育団体と連携を図り、趣味教養の各種教室の開催に努めたが、開催回数は目標の170回に対して118回、参加者数も4,610人の目標に対して、3,327人と大きく下回った。要因としては、例年通りの教室ではなく、ポイント(テーマ等)を絞った内容の企画の立案や受入定員の見直し、企画に対応した講師の確保が出来なかった等が影響したと考えられる。しかし、参加者の評価は良く、今後も人数の確保だけでなく、趣向を凝らした内容で取り組んでいきたい。</p>	
<b>99 学習施設の整備</b>	
<p>市民の教養、情報集の場として図書館機能の充実を図るため、古い図書を除去し新しい図書を配架するなど図書の充実を図っている。図書館の入館者及び貸出冊数について、両方とも目標には至らなかったが、昨年度以上の入館者・貸出冊数となっており、市民の図書に対するニーズは確実に高まっている。平成29年度に整備したインターネット環境や定期的なイベント開催の成果が出ていると思われる。</p>	
<b>100 地域に密着した学習の場の提供</b>	
<p>公民館は地域のコミュニティー活動及び防災の拠点であり、中央公民館や市民館及び地区公民館等の連携強化に努めている。年度により館内での事業内容や天候により変動はあるものの、地区公民館が地域の主体的な活動場所であることは認知されており、利用者数は例年40,000人程度で安定している。</p>	
<b>101 生涯学習推進組織の整備</b>	
<p>市が進めるまちづくり自治会や協議会は徐々に設立され、生涯学習の推進は図れているが、具体的な生涯学習推進組織の整備には至っていない。公民館活動とまちづくり自治会・協議会の活動をリンクさせ、生涯学習推進組織の強化を図っていく。</p>	
<b>102 情報提供・相談組織の整備</b>	
<p>市広報、HP、市民館便り、まちづくり協議会便りなどを通じて事業・教室の周知を行った。また、生涯学習課のHPの更新についても、目標52回に対して、35回の更新を行った。</p>	
<b>103 指導者の育成・人材活用</b>	
<p>子どもの読書を推進するため、読書ボランティアの登録制度を実施している。養成講座も3回行っているが、登録者数は93人で目標には至っていない。活動内容としては野市図書館で毎週、幼児や小学生などに対して童話等の読み聞かせを行っており、読書への興味関心を高める重要な役割を担ってくれている。 生涯学習人材バンクの登録者数は22名で、目標には大きく届いていない。そのため、今後は文化サークルだけでなくスポーツ団体等にも周知を図り、引き続き、人材バンクへの登録を促していく。</p>	
<b>104 生涯学習を通じての地域づくり</b>	
<p>平成30年度も98人の児童が「こどもよさこい」としてよさこい祭りに参加した。子どもたちに知識や経験を培う機会を持たし、保護者や地域間のつながり強化を目的としており、他校の児童と協力し合うことや、練習を幾度も重ねて本番で踊りを披露する達成感を子どもたちは感じさせることができ、保護者のスタッフも増え、本来の目的は十分に達壘できた。 また、夏休みには3ヶ所で教室を開催し予定通り28講座を開催し、それぞれの教室は定員オーバーになる状態で実施され、参加者も目標を大きく上回る430人が参加し、大変盛況だった。</p>	
<b>105 全ての人と共生する生涯学習の推進</b>	
<p>生涯学習施設のバリアフリー化に努めており、西佐古テニス&amp;フットサルパークに多目的トイレを新設した。</p>	

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
<b>B</b>	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>イベントやセミナー、各種教室など各年代に応じた様々な学習機会を提供しているが、平成30年度は開催も参加者も大きく減少している。また、生涯学習の人材バンクの登録者数も大きく目標を下回っているため、今後は文化サークルだけでなくスポーツ団体等にも周知を図り、引き続き、人材バンクへの登録を促していく。 地域住民の交流・地域活動の場としての施設の整備改修については、図書館機能の充実として図書の充実や敵的なイベントの開催、社会体育施設の障害者用トイレの整備(1箇所)を行った。継続した整備を行うとともに、整備した施設が充分活用できるよう啓発に努める。</p>



施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	25. 文化の継承と振興

①施策の基本目標

多様な芸術・文化活動の支援を行うとともに、優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実します。  
また、文化財センターを中心に市の歴史や文化財に触れる機会を充実します。

②基本施策の「まちづくり指標」\_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
106	市美術展覧会の入場者数	人	目標	/	1,300	1,350	1,400	1,400	1,400	1,500	↘	
			実績	1,264	1,304	1,249	1,169					
107	文化財ボランティアガイド登録者数	人 (累)	目標	/	42	42	8	10	10	10	→	
			実績	42	42	42	8					
107	小・中学校への出前講座の実施回数	回	目標	/	2	2	2	3	4	5	→	
			実績	2	2	1	2					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
106	公民館自主事業(舞台・演奏公演)の実施回数	事業	目標	/	6	6	6	6	6	6	→	
			実績	6	6	6	6					
106	文化協会支援事業(文化祭・芸能大会等)	事業	目標	/	14	14	14	14	14	14	→	
			実績	14	14	14	14					
107	文化財啓発事業の実施回数	回	目標	/	7	7	7	8	9	10	↘	
			実績	7	7	8	3					

④128の施策ごとの「成果と課題」

106 芸術・文化活動の推進	文化関係団体との連携を図り、文化祭や美術展を開催し、芸術や文化の振興を図った。市美術展覧会の入場者数は目標には至らず、1,169人の入場者があった。 公民館自主事業(舞台・演奏講演)は、コンサートやライブ、映画上映会など6事業を開催した。また、文化協会支援事業(文化祭・芸能大会等)を14事業開催し、地域の文化活動を推進し、文化意識の高揚を図った。
107 郷土の歴史・文化遺産の保存と継承	文化財ボランティアガイドは計画策定時は42人であったが、「文化財ボランティア養成講座」受講生を指標とし、新たに設定を行った。平成30年度は、養成講座を4回開催し8人の登録があった。今後は、登録者の増加を目指して、人材発掘と育成に努めていく。 郷土の歴史文化遺産の継承を目的に、小・中学校への出前講座を開催し、野市中学校(太平洋戦争時の野市について考える)と岸本小学校(無人島長平)の2校(1回)を訪問した。小・中学校と連携してもっと開催していきたい。 文化財啓発事業は、目標は7回であったが、3回(遺跡発掘調査説明会・夏休み文化財教室・文化財講座)しか出来なかった。来年度以降も、香南市の文化財について一層PRし、文化財の紹介や体験活動を開催していく。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
B	《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない	市美術展覧会を開催し、例年並みの入場者数であったが、目標には届いていない。 文化協会の支援事業や公民館自主事業は計画通りできている。 郷土の歴史・文化遺産の保存と継承として、文化財教室や文化財講座など企画している。小・中学校への啓発は予定通りできているが、地域への文化活動の啓発は予定していた回数には至らず例年より少ない実績となっている。



施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	26. 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興

①施策の基本目標

多くの市民がスポーツに親しめるような様々なジャンルのスポーツを推進し、子どもから高齢者まで各年代に応じた体力の増進を図り、健康で活力に満ちた長寿社会をめざします。  
また、スポーツを通じた青少年の健全育成や、地域の人たちの交流を促進し、活力ある地域社会をめざします。

②基本施策の「まちづくり指標」\_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
108	市長杯等の参加者数	人	目標	/	500	500	550	570	580	590	↗	
			実績	480	501	491	769					
108	市民ウォーキング大会参加者数	人	目標	/	82	90	100	150	200	290	↗	
			実績	80	82	49	163					
109	体育施設の障害者用トイレ設置数(学校開放施設含む)	箇所(累)	目標	/	8	9	10	13	15	17	↘	
			実績	8	8	9	9					
110	スポーツ少年団認定指導員資格取得者数	人(累)	目標	/	66	69	71	73	74	75	↗	
			実績	64	71	73	79					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
108	スポーツ教室開催数(延)	回	目標	/	180	180	180	180	180	180	↗	
			実績	179	613	431	484					
109	ウォーキングコースの設定数	箇所	目標	/	6	10	10	10	10	10	→	
			実績	4	6	10	10					

④128の施策ごとの「成果と課題」

108 生涯スポーツ・競技スポーツの推進	<p>市長杯等を開催し、各種スポーツの普及や交流を深めることができた。バドミントン、ヨット、ソフトバレーボール、パークゴルフ、ラージボール卓球、ベタンク、ゴルフ、テニスなど多岐にわたる種目を行っており、参加者は目標500人に対し、769人の参加があった。 ウォーキングの楽しさを広め、健康増進の意識を高めるために、10月にウォーキング大会(ツデーウォーク)を開催し、83人の参加者があった。また、赤岡町で3月にウォーキング大会を開催し、80人の参加者があった。 NPO法人こうなんスポーツクラブ・NPO法人YASU海の駅クラブ等と連携し、ライフステージにあわせたスポーツ教室を開催した。参加者は180人の目標に対し、769人と大きく目標を上回っている。 その他に、体育協会主催の各地区運動会は、野市地区が雨天により中止以外、4地区で子どもから高齢者まで参加して実施できた。</p>
109 スポーツ環境の充実	<p>体育施設(学校開放施設含む)に障害者用トイレ(多目的トイレ)の整備を行っており、平成30年度は西佐古テニス&amp;フットサルパークの新設に合わせ、管理棟に併設した。また、山下グリーンテニス場では洋便器化を図った。その他スポーツ施設の整備状況としては、赤岡運動公園の防球ネットの張り替えや野市ふれあい広場サッカー場の陥没を修繕するなど、安全性の向上を図った。 ウォーキングコースは生涯学習課と健康対策課が連携し、平成29年度から合計10コースを設定している。今後は、新たなコースの設定を行うのではなく、コースを活用したウォーキング大会等の事業の実施に取り組む。</p>
110 スポーツ指導者の育成・人材活用	<p>スポーツ少年団認定指導員資格を新たに6名が取得し、延べ79人となった。今後も、各団体等へ講習会の周知を行い、資格所得を促していく。また、スポーツ推進員が地域の運動会や駅伝大会に核として協力でき、地域で活躍できる体制が図られている。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
<p><b>A</b></p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>各種教室や大会は、例年どおり実施でき、一定の参加者数は得ている。また、体育協会が主催の各地区での運動会も、子どもから高齢者まで参加し、地域の交流を図ることができた。 スポーツ環境の充実についてはグラウンド整備用の機器を導入するなど、作業性とその安全性の向上に努めており、今後も計画通り整備していく。</p>

施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	27. 災害に強いまちづくりの推進

①施策の基本目標

自然災害による被害を最小限にとどめるため、国や高知県に対し海岸や河川の適切な管理と整備の推進を求めるほか、避難高台の整備や急傾斜地の土砂災害防止対策、山間部の孤立対策を進めます。  
また、地震に対する対策として、公共施設やライフラインの耐震化を進めるとともに、各家庭における対策の促進を図ります。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
111	避難タワーなどの高台整備箇所	基 (累)	目標	/	13	18	18	19	21	22	→	
			実績	12	13	17	18					
112	防災訓練(土砂災害)の実施	回	目標	/	未実施	初実施 <sub>1</sub>	1	1	1	定期実施	→	
			実績	未実施	初実施 <sub>1</sub>	1	1					
113	住宅耐震改修件数【再掲】	棟	目標	/	110	110	120	120	130	130	↘	
			実績	100	70	89	68					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
111	津波避難路の整備箇所	箇所 (累)	目標	/	16	18	19	20	21	22	→	
			実績	15	19	19	19					
112	国・県への河川整備要望行動【再掲】	回	目標	/	3	3	3	3	3	3	↗	
			実績	3	3	3	4					
113	住宅耐震診断件数【再掲】	件	目標	/	120	120	120	120	120	120	↘	
			実績	113	127	94	83					
113	家具転倒防止器具等補助金申請件数	件	目標	/	50	50	50	50	/	/	↘	
			実績	13	61	27	11					

④128の施策ごとの「成果と課題」

111 津波・高潮の被害軽減対策	市民が津波から迅速・適確に避難できるよう、避難タワーや避難路の整備を進めている。「命を守る対策」の喫緊の課題として取り組んでいる津波避難タワーは、計画数22基の内、18基の整備が完了し、概ね計画通り進んでいる。また、津波避難路の整備については、目標通り19路線の整備をすることができた。津波避難タワーと避難路の整備を併せ、津波避難が困難な地区の解消に向けた取組を加速していく。
112 水害・土砂災害予防対策	近年、集中豪雨(ゲリラ豪雨)による水害や、土砂災害も頻繁に発生するようになり、平成27年度までは未実施だった土砂災害の防災訓練を平成29年度から実施している。平成30年度も計画通り実施できた。今後、定期的な実施はもちろんのこと、水防資機材の備蓄強化にも努めていく。また、堤防の整備・かさ上げや強靱化、河床の浚渫などの河川整備の要望行動を国・県に継続的に行った。
113 地振動に強いまちづくり	住宅等の耐震補強・耐震改修の促進に取り組んでおり、改修前の耐震診断への補助は、目標120件に対し83件の実績があった。また、診断後の、耐震改修は68件に補助を行った。あわせて、家庭での家具・棚の固定など、生活空間の揺れ対策として「家具転倒防止器具等補助金」を支給しており、こちらは11件の実績があった。 耐震診断および家具転倒防止については年々減少傾向にあり、制度の更なる周知が課題となっている。住宅耐震化の重要性を広報や自主防災組織連絡会、その他イベント等を通じて啓発していく。
114 孤立化防止対策の推進	孤立が防止の施策について、孤立のおそれのある集落のう回路として連絡線形となる道路網の整備やヘリポートの整備、情報通信網などの整備に努める必要があるが、具体的な整備計画には至っていない。
115 ライフラインの安全対策の強化	災害時に、ライフライン(水道・下水道・電力・市営バス・民間のインフラ整備など)が寸断されることがないよう、また、被害が生じても早急に復旧できるよう、安全対策を強化しないといけないが、具体的な整備計画には至っていない。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
C 《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない	避難タワーや避難道整備についても、市の重点施策に位置付けており、概ね順調に事業は実施できている。耐震診断や家具転倒等防止の補助事業については、目標件数に至っていない、利用が前年に比べて大きく減少しており、事業の重要性と一層活用していただけるよう広報やPRIに努めていく。

施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	28. 地域防災力の育成

①施策の基本目標

近年発生した大震災や土砂災害、河川の氾濫など、災害の教訓をふまえ、広く防災知識の普及に努めるとともに、地域自主防災組織の設立促進と組織力の向上を図ります。  
また、災害発生時の要配慮者対応を強化し、関係機関や地域との連携に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
116	香南市業務継続計画の実践訓練	回	目標	/	未実施	未実施	1	0	1	定期実施	↗	
			実績	未実施	初実施 2	2	2					
117	自主防災組織の結成率	% (累)	目標	/	91.0	94.0	97.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	89.2	89.0	90.6	89.7					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
116	職員に対する防災研修回数	回	目標	/	2	2	4	4	6	6	↘	
			実績	1	2	2	3					
116	児童・生徒に対する防災教育回数	回/校	目標	/	5	5	5	5	5	5	→	
			実績	5	5	5	5					
116	市民に対する防災研修回数	回	目標	/	未実施	未実施	2	2	3	3	↗	
			実績	未実施	20	25	25					
117	リーダー育成研修の参加組織数	組織	目標	/	35	41	47	53	54	55	↘	
			実績	13	7	10	18					
118	「避難行動要支援者名簿」の作成及び更新	-	目標	/	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	→	
			実績	作成済	随時更新	随時更新	随時更新					
118	避難支援プラン(個別計画)作成件数	件 (累)	目標	/	2	20	50	80	80	80	↘	
			実績	着手	1	2	3					
118	園児の避難訓練実施回数	回/園	目標	/	12	12	12	12	12	12	→	
			実績	12	12	12	12					
118	児童・生徒の避難訓練実施回数	回/校	目標	/	3	3	3	3	3	3	→	
			実績	3	3	3	3					
119	社会福祉協議会との連絡会	回	目標	/	1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1					

④128の施策ごとの「成果と課題」

116 防災知識の普及	<p>香南市業務継続計画の実践訓練を目標は1回としていたが、昨年度に引き続き2回実施できた。目標は隔年実施としているが、今後も継続して毎年実施していく。</p> <p>児童・生徒に対する防災教育は予定通り実施できたが、職員に対する防災訓練は3回の実施となった。今後も、災害の教訓を踏まえた具体的で分かりやすい防災知識の教育を進めていく。</p> <p>市民に対する防災研修も開催当初から計画を大きく上回る回数を実施しており、平成30年度も25回実施することができた。</p>
117 自主防災体制の整備	<p>個人と自主防災組織など市内の各種団体、事業所、行政が明確に役割分担しながら、日頃からの災害予防を進めることが重要である。</p> <p>その中でも、自主防災組織の育成は特に重要であり、平成30年度末の市内の自主防災組織の結成率は89.7%(13,347世帯(自主防加入世帯)/14,882世帯(全世帯数))と目標には至っていない。組織結成に向けて伸び悩んでいるが、引き続き、結成率100%を目指して取り組んでいく。</p> <p>また、防災リーダーの育成も重要であることから、防災リーダー育成を目的とした研修会への参加を自主防災組織を中心に呼びかけている。平成30年度からは、れんげいこうち広域都市圏の取組も始まり、高知市と連携した防災リーダーの育成研修会も開催され、研修機会も増加したことから平成30年度は18組織が参加を行ったが目標には届いていない。</p>
118 災害時要配慮者の支援対策	<p>避難行動要支援者名簿の作成については、平成28年度末に地域福祉支援システムを導入し、作成済である。それ以降は随時更新できており、今後は名簿の運用についてプライバシーに細心の配慮を図りながら、市職員、消防団員、民生委員、自主防災組織員などの連携強化に努める。</p> <p>また、その名簿一人ひとりの情報伝達、救助・避難誘導の方法を具体的に示した「個別避難支援プラン」は平成30年度末で3件の作成状況であるが、対象者からの同意を得ることと、プラン作成に向け一層取り組んでいく。</p> <p>児童・生徒の避難訓練は予定通り実施できた。今後も地域の実情に合った訓練を計画し実施していく。</p>

119 ボランティアの環境整備

災害時は、市社会福祉協議会が「香南市災害ボランティアセンター」を開設し、ボランティアコーディネーターとして、派遣要請やボランティアの受付、業務の割り振りなどを行うこととなる。それら活動が円滑に行われるよう、関係者で情報を共有するための連絡会を行った。今後も引き続き開催していく。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
<b>B</b>	<p>《基準》基本施策の成果                      (A) 充分成果がでている                      (B) ある程度成果がでている                      (C) あまり成果がでていない</p>	<p>香南市業務継続計画の実践訓練は、平成28年度の開始時より、毎年2回実施することができている。自主防災組織の結成については、結成に向けた声掛けや説明は行っているが、目標達成には至っていない。引き続き、自治会の結成と連携して地域と協議を行う。また、すでに結成されている組織の活動や啓発も重要であり、それぞれの状況等を把握し、より活動が活性化するように努める。避難行動要支援者対策として、対象者からの同意を得て、避難支援プラン(個別計画)の作成に一層力を入れて取り組む。</p>

施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	29. 防災体制の強化

①施策の基本目標

大規模災害の発生に対応するため、市民や職員が必要な活動を行える体制の整備、迅速かつ確かな消防体制・医療救護体制の整備、円滑で的確な救援物資の輸送体制の整備を進めます。  
また、災害時の情報伝達を強化するため、多様な通信手段の確保に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」\_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
120	香南市総合防災訓練参加者数	人	目標		6,400	6,700	7,100	7,500	7,500	7,500	↘	
			実績	4,844	4,304	3,996	4,394					
121	防災行政無線(移動系)整備	-	目標		アナログ	アナログ	整備開始	整備中	整備中	デジタル化	→	
			実績	アナログ	アナログ	アナログ	実証実験中					
124	備蓄倉庫の整備 (浸水区域内)	棟 (累)	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1	1	1	1		
124	備蓄倉庫の整備 (浸水区域外)	棟 (累)	目標		1	2	2	3	3	3	↘	
			実績	0	0	1	1					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
120	防災協定の締結数	件	目標		96	100	104	108	110	110	↗	
			実績	92	96	104	105					
121	香南市配信メールの登録者数	人 (累)	目標		1,300	1,400	1,500	1,700	1,900	2,100	↘	
			実績	1,256	1,176	1,132	1,195					
122	火災予防の啓発回数	回	目標		120	120	120	120	120	120	→	
			実績	116	102	120	120					
122	消防水利の耐震箇所数	箇所	目標		25	26	28	28	29	29	→	
			実績	23	25	26	28					
123	医療救護訓練の実施	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1					

④128の施策ごとの「成果と課題」

120 応急活動体制の整備	<p>災害発生後の応急活動を迅速・適確に行うために、平成30年度においても、香南市総合防災訓練を夜須中学校において開催した。参加者は4,394人と昨年度よりは増えているが、目標人数を大きく下回っている。 いざというときに的確で迅速な判断に基づき行動することは困難であり、訓練を通して状況に応じた判断力や行動力を養っていくことが重要となるので、ひとりでも多くの市民に防災訓練へ参加してもらえよう引き続き取り組んでいく。</p>
121 情報通信システムの強化	<p>防災行政無線(移動系)の整備を進めており、平成30年度は整備開始に向けた実証実験中であり、進捗状況は予定通りである。 携帯電話・スマートフォンは、災害時の情報通信手段として大きな役割が期待される。本市では、携帯電話会社と連携しながら、緊急地震速報などの気象情報や地域の災害情報を即時配信する「香南市配信メール」を実施しており、広報や小中学校を通じて利用促進を図っている。登録者数は1,195人と目標には至っていない。今後も登録者数の増加に向けて、継続して取り組んでいく。</p>
122 火災予防対策の推進	<p>市内の事業所では避難訓練や通報訓練、消火訓練を実施しており、香南市消防本部はその内120回の訓練に立会い、必要に応じて、応援や指導を行った。今後も、訓練等に立会い、火災予防に努める。 消防水利の耐震化については、28箇所整備されており、概ね目標どおりである。また市内には、約900強の消火栓と約200の防火水槽があるが、耐震性が充分でない防火水槽もあり、災害時には利用できなくなる恐れもあるので、順次耐震化に努めていく。</p>
123 災害時医療救護体制の整備	<p>災害発生時においては、72時間以内に災害時医療救護体制を立ち上げる必要がある。 平成30年度は、職員間での体制や流れの確認も併せた医療救護訓練を図上訓練にて実施した。来年度以降も訓練の継続実施に努め、医師会や他機関と連携を図る。</p>

124 緊急輸送体制の整備

災害時には、大量の応援物資を保管・仕分けする拠点が必要であり、津波や水害による避難も想定しながら、整備する必要がある。  
 すでに、浸水区域内には1箇所(吉川町)に整備を行っており、今後は備蓄品の整備に努めていく。また、平成29年度には浸水区域外(こうなん学校給食センター隣)に1箇所の整備を行っており、平成30年度も1箇所予定していたが整備には至っていない。引き続き、浸水区域外での整備を進めるとともに、地域物資拠点の確保と機能充実に努める。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見および次年度に向けて
<b>B</b>	《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない	香南市防災訓練への参加者は昨年度よりは増えているが、目標には至っていない。日常からの訓練が、災害時の行動につながるので、ソフト面の強化もあわせて、訓練への参加を呼びかけや周知の方法について検討していく必要がある。 備蓄倉庫や耐震性防火水槽、情報伝達の整備などのハード面は順調に整備できている。また、火災予防の訓練も予定通り実施でき、防災体制の強化は図れている。



施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	30. 市民生活の確保

①施策の基本目標

南海トラフ地震など、大規模災害時の避難対策として、避難所の整理と運営体制の確立を進めます。また、避難生活に必要な備蓄品については、公的備蓄の早期整備と個人備蓄の啓発に努めます。廃棄物の処理については、集積場所の確保や、民間処理事業者との協力体制の確立を進めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
125	避難所運営マニュアル作成	箇所 (累)	目標	/	1	7	13	19	25	27	↗	
			実績	0	2	11	17					
126	食料・生活必需品の備蓄率 (L2想定避難者12,000人分)	% (累)	目標	/	58.0	72.0	83.0	85.0	93.0	100.0	↗	
			実績	61.0	70.0	83.3	86.0					

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
125	避難タワーなどの高台整備箇所【再掲】	基 (累)	目標	/	13	18	18	19	21	22	→	
			実績	12	13	17	18					
125	津波避難路の整備箇所【再掲】	箇所 (累)	目標	/	16	18	19	20	21	22	↗	
			実績	15	19	19	19					
127	中央東福祉保健所との連携協議回数	回	目標	/	1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1					
128	応急期機能配置計画の策定	-	目標	/	準備	策定	策定	策定	策定	策定	→	
			実績	未策定	策定	策定	策定			関係機関 手続完了		
128	災害廃棄物処理計画の策定	-	目標	/	未策定	策定	策定	策定	策定	策定	→	
			実績	未策定	未策定	策定	策定	策定	策定	策定		

④128の施策ごとの「成果と課題」

125 避難対策の推進	災害が起こってから避難所について考えているのは、円滑に開設や運営を行うことは困難であり、避難所マニュアルの作成は避難所を安定的に運営するために大変重要である。 平成30年度は野市東小学校地域をはじめ、6避難所(延17避難所)の避難所マニュアルを作成した。今後は、マニュアルを活用した訓練の実施と継続的な見直しを行っていく必要がある。
126 食料・飲料水・生活必需品の確保	「最大クラスの地震・津波」(L2)を想定し、12,000人の避難者の食料・生活必需品の備蓄に努めている。 平成30年度においても、非常食・飲料水・毛布・生理用品・おむつ・仮設トイレなどの備蓄を行い、備蓄率は86.0%となっている。
127 保健衛生・防疫体制の確保	伝染病や食中毒等の発生予防と発生後に速やかに対応するためには、中央東福祉保険所との連携が重要であり、1回ではあるが平成30年度も連携協議の場を持つことができた。今後も、継続して協議の場を持ち、体制づくりを行なっていく。
128 ごみ・がれき、し尿の処理体制の確保	平成28年度に、地震発生時から応急期にかけて必要となる用地や施設などの機能配置を定めるための応急期機能配置計画の策定を行った。計画は、南海トラフ地震発災後、住民の命を守り、助かった命をつなぐため、救助・救出や応急対応活動等の体制を早期に確立することを目的とし、災害発生時に必要となる各機能をどのように配置するのか検討を行ったもので、今後は、その計画に基づき、施設の整備等に努めていく必要がある。 また、平成29年度には、災害廃棄物に関する基本的な考え方、処理方法や処理手順などを定めた、災害廃棄物処理計画の策定を行った。今後は、計画どおり処理を行える体制づくりと組織強化を図っていく必要がある。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見および次年度に向けて
A	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p> <p>避難所運営マニュアルや災害廃棄物処理計画など各種計画は予定通り策定できている。今後は、計画に基づき取組を進めていく。 市民生活の確保に必要不可欠である、食料・生活必需品の備蓄率も目標以上となっている。</p>